

授業名	英語 u a			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	English			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	奥 尚子			対象学生	現代家政1回生			
授業の概要	リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4領域にわたる総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成するが、とりわけ速読型のリーディングとリスニングに重点を置き、それを補完する形でスピーキングとライティングの学習を行う。予習をしていることを前提にテキストの内容確認と練習問題をする。							
学習成果到達目標	1) 英語基本5文型を中心とした基本的な知識を獲得することができる。 2) テキストの音声ファイルをダウンロードし、native speakerの話し方を模倣し、英語のアクセント・リズム・ピッチを反復練習することで発音が正確にできるようになる。 3) 英語四技能を段階的に修得することができる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (語彙力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	『Reading Access』 MIWAKO YAMASHINA他 (センゲージラーニング)							
参考書	使用しない。							
留意事項	授業前には必ず、単語の意味を調べてくること。予習復習をしっかりと行うこと。辞書を持参すること。全授業の1/3以上の欠席は定期試験の受験を認めない。また、演習授業のため30分以上の遅刻は欠席扱いとする。学生の習熟度にあわせて授業をするので、シラバスの進捗と異なる場合があります。							
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		英語 u a
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	Introduction	(内 容) 授業の学習計画を立てる。 (必要な準備) 本授業のシラバスを読む。教科書を事前に必ず購入し目を通しておくこと。
第2回	Chapter 1 A Family Sees America Together	(内 容) pp. 12~17 (必要な準備) pp. 12~17の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第3回	Chapter 1 A Family Sees America Together	(内 容) pp. 12~17 (必要な準備) pp. 12~17の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第4回	Chapter 2 Volunteer Vacations	(内 容) pp. 18~24 (必要な準備) pp. 18~24の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第5回	Chapter 2 Volunteer Vacations	(内 容) pp. 18~24 (必要な準備) pp. 18~24の単語調べ、本文を読んでおくこと。
第6回	Chapter 3 How Alike Are Identical Twins?	(内 容) pp. 26~33 (必要な準備) pp. 26~33の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第7回	Chapter 3 How Alike Are Identical Twins?	(内 容) pp. 26~33 (必要な準備) pp. 26~33 の単語調べ、本文を読んでおくこと。
第8回	Review1 小テスト(Chapter1~3単語テスト)	(内 容) Review Test1 Chapter1~3の復習をする。 (必要な準備) 小テストのための家庭学習
第9回	Chapter 4 The Search for Happiness through Adoption	(内 容) pp. 34~40 (必要な準備) pp. 34~40の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第10回	Chapter 4 The Search for Happiness through Adoption	(内 容) pp. 34~40 (必要な準備) pp. 34~40の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第11回	Chapter 5 Robots: The Face of the Future	(内 容) pp. 42~47 (必要な準備) pp. 42~47の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第12回	Chapter 5 Robots: The Face of the Future	(内 容) pp. 42~47 (必要な準備) pp. 42~47の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第13回	Chapter 6 A New Way to Go	(内 容) pp. 48~54 (必要な準備) pp. 48~54の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第14回	Chapter 6 A New Way to Go	(内 容) pp. 48~54 (必要な準備) pp. 48~54の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第15回	Review 2小テスト(Chapter4~6単語テスト)	(内 容) Review Test2 Chapter 4~6までの復習をする。 (必要な準備) 小テストのための家庭学習

授業名	英語 ub			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	English			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	和田 未穂子			対象学生	現代家政1回生			
授業の概要	リーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの4領域において総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成するが、とりわけ速読型のリーディングとリスニングに重点を置き、それを補完する形でスピーキングとライティングの学習を行う。予習をしていることを前提にテキストの内容確認と練習問題をやる。							
学習成果到達目標	<p>1) 英語基本5文型を中心とした基本的知識を獲得することができる。</p> <p>2) テキストの音声ファイルをダウンロードしnative speakerの話方を模倣し、英語のアクセント・リズム・ピッチを反復練習することで発音が正確にできるようになる。</p> <p>3) 英語四技能を段階的に修得することができる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (語彙力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	『Reading Access』 MIWAKO YAMASHINA 他 (センゲージラーニング)							
参考書	使用しない。							
留意事項	授業前には必ず、単語の意味を調べてくること。予習復習をしっかりと行うこと。辞書を持参すること。全授業の1/3以上の欠席は定期試験の受験を認めない。また、演習授業のため30分以上の遅刻は欠席扱いとする。学生の習熟度にあわせて授業するのでシラバスの進捗と異なる場合があります。							
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		英語 u b
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	Introduction	(内 容) 授業の学習計画を立てる。 (必要な準備) 本授業のシラバスを読む。教科書を事前に必ず購入し目を通しておくこと。
第2回	Chapter 1 A Family Sees America Together	(内 容) pp. 12-17 (必要な準備) pp. 12-17の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第3回	Chapter 1 A Family Sees America Together	(内 容) pp. 18-24 (必要な準備) pp. 18-24の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第4回	Chapter 2 Volunteer Vacations	(内 容) pp. 18-24 (必要な準備) pp. 18-24の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第5回	Chapter 2 Volunteer Vacations	(内 容) pp. 18-24 (必要な準備) pp. 18-24の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第6回	Chapter 3 How Alike Are Identical Twins?	(内 容) pp.26-33 (必要な準備) pp.26 - 33の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第7回	Chapter 3 How Alike Are Identical Twins?	(内 容) pp.26-33 (必要な準備) pp.26 - 33の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第8回	Review 1 (Chapter1~ 3 単語テスト)	(内 容) Review Test 1 Chapter 1~ 3までの復習をする。 (必要な準備) 小テストのための家庭学習
第9回	Chapter 4 The Search for Happiness through Adoption	(内 容) pp.34-40 (必要な準備) pp.34-40の単語調べ本文を読んでおくこと。
第10回	Chapter 4 The Search for Happiness through Adoption	(内 容) pp.34-40 (必要な準備) pp.34-40の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第11回	Chapter 5 Robots: The Face of the Future	(内 容) pp.42-47 (必要な準備) pp.42-47の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第12回	Chapter 5 Robots: The Face of the Future	(内 容) pp.42-47 (必要な準備) pp.42-47の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第13回	Chapter 6 A New Way to Go	(内 容) pp.48-54 (必要な準備) pp.48-54の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第14回	Chapter 6 A New Way to Go	(内 容) pp.48-54 (必要な準備) pp.48-54の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第15回	Review 2 (Chapter4~ 6 単語テスト)	(内 容) Review 2 Chapter 4~ 6までの復習をする。 (必要な準備) 小テストのための家庭学習

授業名	英語 uc			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	English			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	和田 未穂子			対象学生	食物栄養1回生			
授業の概要	リーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの4領域において総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成するが、とりわけ速読型のリーディングとリスニングに重点を置き、それを補完する形でスピーキングとライティングの学習を行う。予習をしていることを前提にテキストの内容確認と練習問題をやる。							
学習成果到達目標	<p>1) 英語基本5文型を中心とした基本的知識を獲得することができる。</p> <p>2) テキストの音声ファイルをダウンロードしnative speakerの話方を模倣し、英語のアクセント・リズム・ピッチを反復練習することで発音が正確にできるようになる。</p> <p>3) 英語四技能を段階的に修得することができる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (語彙力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	『Reading Access』 MIWAKO YAMASHINA 他 (センゲージラーニング)							
参考書	使用しない。							
留意事項	授業前には必ず、単語の意味を調べてくること。予習復習をしっかりと行うこと。辞書を持参すること。全授業の1/3以上の欠席は定期試験の受験を認めない。また、演習授業のため30分以上の遅刻は欠席扱いとする。学生の習熟度にあわせて授業するのでシラバスの進捗と異なる場合があります。							
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		英 語 u c
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題
第1回	Introduction	(内 容) 授業の学習計画を立てる。 (必要な準備) 本授業のシラバスを読む。教科書を事前に必ず購入し目を通しておくこと。
第2回	Chapter 1 A Family Sees America Together	(内 容) pp. 12-17 (必要な準備) pp. 12-17の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第3回	Chapter 1 A Family Sees America Together	(内 容) pp. 12-17 (必要な準備) pp. 12-17の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第4回	Chapter 2 Volunteer Vacations	(内 容) pp. 18-24 (必要な準備) pp. 18-24の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第5回	Chapter 2 Volunteer Vacations	(内 容) pp. 18-24 (必要な準備) pp. 18-24の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第6回	Chapter 3 How Alike Are Identical Twins?	(内 容) pp.26-33 (必要な準備) pp.26 - 33の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第7回	Chapter 3 How Alike Are Identical Twins?	(内 容) pp.26-33 (必要な準備) pp.26 - 33の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第8回	Review 1 (Chapter1~ 3 単語テスト)	(内 容) Review Test 1 Chapter 1~ 3 までの復習をする。 (必要な準備) 小テストのための家庭学習
第9回	Chapter 4 The Search for Happiness through Adoption	(内 容) pp.34-40 (必要な準備) pp.34-40の単語調べ本文を読んでおくこと。
第10回	Chapter 4 The Search for Happiness through Adoption	(内 容) pp.34-40 (必要な準備) pp.34-40の単語調べ本文を読んでおくこと。
第11回	Chapter 5 Robots: The Face of the Future	(内 容) pp.42-47 (必要な準備) pp.42-47の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第12回	Chapter 5 Robots: The Face of the Future	(内 容) pp.42-47 (必要な準備) pp.42-47の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第13回	Chapter 6 A New Way to Go	(内 容) pp.48-54 (必要な準備) pp.48-54の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第14回	Chapter 6 A New Way to Go	(内 容) pp.48-54 (必要な準備) pp.48-54の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第15回	Review 2 (Chapter4~ 6 単語テスト)	(内 容) Review 2 Chapter 4~ 6 までの復習をする。 (必要な準備) 小テストのための家庭学習

授業名	英語 u d			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	English			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	和田 未穂子			対象学生	食物栄養1回生			
授業の概要	リーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの4領域において総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成するが、とりわけ速読型のリーディングとリスニングに重点を置き、それを補充する形でスピーキングとライティングの学習を行う。予習をしていることを前提にテキストの内容確認と練習問題をやる。							
学習成果到達目標	<p>1) 英語基本5文型を中心とした基本的知識を獲得することができる。</p> <p>2) テキストの音声ファイルをダウンロードしnative speakerの話し方を模倣し、英語のアクセント・リズム・ピッチを反復練習することで発音が正確にできるようになる。</p> <p>3) 英語四技能を段階的に修得することができる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (語彙力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	『Reading Access』 MIWAKO YAMASHINA 他 (センゲージラーニング)							
参考書	使用しない。							
留意事項	授業前には必ず、単語の意味を調べてくること。予習復習をしっかりと行うこと。辞書を持参すること。全授業の1/3以上の欠席は定期試験の受験を認めない。また、演習授業のため30分以上の遅刻は欠席扱いとする。学生の習熟度にあわせて授業するのでシラバスの進捗と異なる場合があります。							
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		英語 u d
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	Introduction	(内 容) 授業の学習計画を立てる。 (必要な準備) 本授業のシラバスを読む。教科書を事前に必ず購入し目を通しておくこと。
第2回	Chapter 1 A Family Sees America Together	(内 容) pp. 12-17 (必要な準備) pp. 12-17の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第3回	Chapter 1 A Family Sees America Together	(内 容) pp. 12-17 (必要な準備) pp. 12-17の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第4回	Chapter 2 Volunteer Vacations	(内 容) pp. 18-24 (必要な準備) pp. 18-24の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第5回	Chapter 2 Volunteer Vacations	(内 容) pp. 18-24 (必要な準備) pp. 18-24の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第6回	Chapter 3 How Alike Are Identical Twins?	(内 容) pp.26-33 (必要な準備) pp.26 - 33の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第7回	Chapter 3 How Alike Are Identical Twins?	(内 容) pp.26-33 (必要な準備) pp.26 - 33の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第8回	Review 1 (Chapter1~ 3 単語テスト)	(内 容) Review Test 1 Chapter 1~ 3までの復習をする。 (必要な準備) 小テストのための家庭学習
第9回	Chapter 4 The Search for Happiness through Adoption	(内 容) pp.34-40 (必要な準備) pp.34-40の単語調べ本文を読んでおくこと。
第10回	Chapter 4 The Search for Happiness through Adoption	(内 容) pp.34-40 (必要な準備) pp.34-40の単語調べ本文を読んでおくこと。
第11回	Chapter 5 Robots: The Face of the Future	(内 容) pp.42-47 (必要な準備) pp.42-47の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第12回	Chapter 5 Robots: The Face of the Future	(内 容) pp.42-47 (必要な準備) pp.42-47の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第13回	Chapter 6 A New Way to Go	(内 容) pp.48-54 (必要な準備) pp.48-54の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第14回	Chapter 6 A New Way to Go	(内 容) pp.48-54 (必要な準備) pp.48-54の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第15回	Review 2 (Chapter4~ 6 単語テスト)	(内 容) Review 2 Chapter 4~ 6までの復習をする。 (必要な準備) 小テストのための家庭学習

授業名	英語 u a			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	English			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	奥 尚子			対象学生	現代家政1回生			
授業の概要	リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4領域にわたる総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成するが、とりわけ速読型のリーディングとリスニングに重点を置き、それを補完する形でスピーキングとライティングの学習を行う。予習をしていることを前提にテキストの内容確認と練習問題をやる。							
学習成果到達目標	<p>1) 英語基本5文型を中心とした基本的な知識を獲得することができる。</p> <p>2) テキストの音声ファイルをダウンロードし、native speakerの話し方を模倣し、英語のアクセント・リズム・ピッチを反復練習することで発音が正確にできるようになる。</p> <p>3) 英語四技能を段階的に修得することができる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (語彙力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	『Reading Access』 MIWAKO YAMASHINA他 (センゲージラーニング)							
参考書	使用しない。							
留意事項	授業前には必ず、単語の意味を調べてくること。予習復習をしっかりと行うこと。辞書を持参すること。全授業の1/3以上の欠席は定期試験の受験を認めない。また、演習授業のため30分以上の遅刻は欠席扱いとする。学生の習熟度にあわせて授業をするので、シラバスの進捗と異なる場合があります。							
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		英語 u a
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	Introduction	(内 容) 授業の学習計画を立てる。 (必要な準備) 本授業のシラバスを読む。
第2回	Chapter 7 Improving Lives with Pet Therapy	(内 容) pp. 56～61 (必要な準備) pp. 56～61の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第3回	Chapter 7 Improving Lives with Pet Therapy	(内 容) pp. 56～61 (必要な準備) pp. 56～61の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第4回	Chapter 8 A Healthy Diet for Everyone	(内 容) pp. 62～68 (必要な準備) pp. 62～68の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第5回	Chapter 8 A Healthy Diet for Everyone	(内 容) pp. 62～68 (必要な準備) pp. 62～68の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第6回	Chapter 9 Alfred Nobel: A Man of Peace	(内 容) pp. 70～77 (必要な準備) pp. 70～77の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第7回	Chapter 9 Alfred Nobel: A Man of Peace	(内 容) pp. 70～77 (必要な準備) pp. 70～77の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第8回	Review1(小テストChapter7～9)	(内 容) Review Test 1 Chapter7～9の復習をする。 (必要な準備) 小テストのための家庭学習
第9回	Chapter 10 Marie Curie: Nobel Prize Winner	(内 容) pp. 78～84 (必要な準備) pp. 78～84の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第10回	Chapter 10 Marie Curie: Nobel Prize Winner	(内 容) pp. 78～84 (必要な準備) pp. 78～84の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第11回	Chapter 11 Oil as an Important World Resource	(内 容) pp. 86～93 (必要な準備) pp. 86～93の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第12回	Chapter 11 Oil as an Important World Resource	(内 容) pp. 86～93 (必要な準備) pp. 86～93の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第13回	Chapter 12 Earthquakes: Hard to Predict	(内 容) pp. 94～99 (必要な準備) pp. 94～99の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第14回	Chapter 12 Earthquakes: Hard to Predict	(内 容) pp. 94～99 (必要な準備) pp. 94～99の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第15回	Review2 (小テストChapter10～12)	(内 容) Review Test 2 Chapter10～12の復習をする。 (必要な準備) 小テストのための家庭学習

授業名	英語 ub			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	English			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	和田 未穂子			対象学生	現代家政1回生			
授業の概要	リーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの4領域において総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成するが、とりわけ速読型のリーディングとリスニングに重点を置き、それを補完する形でスピーキングとライティングの学習を行う。予習をしていることを前提にテキストの内容確認と練習問題をやる。							
学習成果到達目標	<p>1) 英語基本5文型を中心とした基本的知識を獲得することができる。</p> <p>2) テキストの音声ファイルをダウンロードしnative speakerの話方を模倣し、英語のアクセント・リズム・ピッチを反復練習することで発音が正確にできるようになる。</p> <p>3) 英語四技能を段階的に修得することができる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (語彙力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	『Reading Access』 MIWAKO YAMASHINA 他 (センゲージラーニング)							
参考書	使用しない。							
留意事項	授業前には必ず、単語の意味を調べてくること。予習復習をしっかりと行うこと。辞書を持参すること。全授業の1/3以上の欠席は定期試験の受験を認めない。また、演習授業のため30分以上の遅刻は欠席扱いとする。学生の習熟度にあわせて授業するのでシラバスの進捗と異なる場合があります。							
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		英語 ub
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	Introduction	(内 容) 授業の学習計画を立てる。 (必要な準備) 本授業のシラバスを読む。教科書を事前に必ず購入し目を通しておくこと。
第2回	Chapter 7 Improving Lives with Pet Therapy	(内 容) pp. 56 - 61 (必要な準備) pp. 56 - 61の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第3回	Chapter 7 Improving Lives with Pet Therapy	(内 容) pp. 56 - 61 (必要な準備) pp. 56 - 61の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第4回	Chapter 8 A Healthy Diet for Everyone	(内 容) pp. 62-68 (必要な準備) pp. 62 - 68の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第5回	Chapter 8 A Healthy Diet for Everyone	(内 容) pp. 62-68 (必要な準備) pp. 62 - 68の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第6回	Chapter 9 Alfred Nobel: A Man of Peace	(内 容) pp.70-77 (必要な準備) pp. 70 - 77の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第7回	Chapter 9 Alfred Nobel: A Man of Peace	(内 容) pp.70-77 (必要な準備) pp. 70 - 77の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第8回	Review1 (小テストChapter 7 ~ 9)	(内 容) Chapter 7 ~ 9までの復習をする。 (必要な準備) 小テストのための家庭学習。
第9回	Chapter 10 Marie Curie: Nobel Prize Winner	(内 容) pp.78-84 (必要な準備) pp. 78 - 84の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第10回	Chapter 10 Marie Curie: Nobel Prize Winner	(内 容) pp.78-84 (必要な準備) pp. 78 - 84の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第11回	Chapter 11 Oil as an Important World Resource	(内 容) pp.86-93 (必要な準備) pp. 86 - 93の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第12回	Chapter 11 Oil as an Important World Resource	(内 容) pp.86-93 (必要な準備) pp. 86 - 93の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第13回	Chapter 12 Earthquakes: Hard to Predict	(内 容) pp.94-99 (必要な準備) pp. 94 - 99の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第14回	Chapter 12 Earthquakes: Hard to Predict	(内 容) pp.94-99 (必要な準備) pp. 94 - 99の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第15回	Review 2 (小テストChapter 10 ~ 12)	(内 容) Review 2 Chapter 10 ~ 12までの復習をする。 (必要な準備) 小テストのための家庭学習。

授業名	英語 uc			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	English11			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	和田 未穂子			対象学生	食物栄養1回生			
授業の概要	リーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの4領域において総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成するが、とりわけ速読型のリーディングとリスニングに重点を置き、それを補充する形でスピーキングとライティングの学習を行う。予習をしていることを前提にテキストの内容確認と練習問題をやる。							
学習成果到達目標	<p>1) 英語基本5文型を中心とした基本的知識を獲得することができる。</p> <p>2) テキストの音声ファイルをダウンロードしnative speakerの話方を模倣し、英語のアクセント・リズム・ピッチを反復練習することで発音が正確にできるようになる。</p> <p>3) 英語四技能を段階的に修得することができる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (語彙力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	『Reading Access』 MIWAKO YAMASHINA 他 (センゲージラーニング)							
参考書	使用しない。							
留意事項	授業前には必ず、単語の意味を調べてくること。予習復習をしっかりと行うこと。辞書を持参すること。全授業の1/3以上の欠席は定期試験の受験を認めない。また、演習授業のため30分以上の遅刻は欠席扱いとする。学生の習熟度にあわせて授業するのでシラバスの進捗と異なる場合があります。							
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		英語 UC
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	Introduction	(内 容) 授業の学習計画を立てる。 (必要な準備) 本授業のシラバスを読む。教科書を事前に必ず購入し目を通しておくこと。
第2回	Chapter 7 Improving Lives with Pet Therapy	(内 容) pp. 56 - 61 (必要な準備) pp. 56 - 61の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第3回	Chapter 7 Improving Lives with Pet Therapy	(内 容) pp. 56 - 61 (必要な準備) pp. 56 - 61の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第4回	Chapter 8 A Healthy Diet for Everyone	(内 容) pp. 62-68 (必要な準備) pp. 62 - 68の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第5回	Chapter 8 A Healthy Diet for Everyone	(内 容) pp. 62-68 (必要な準備) pp. 62 - 68の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第6回	Chapter 9 Alfred Nobel: A Man of Peace	(内 容) pp.70-77 (必要な準備) pp. 70 - 77の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第7回	Chapter 9 Alfred Nobel: A Man of Peace	(内 容) pp.70-77 (必要な準備) pp. 70 - 77の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第8回	Review1 (小テストChapter 7 ~ 9)	(内 容) Chapter 7 ~ 9までの復習をする。 (必要な準備) 小テストのための家庭学習。
第9回	Chapter 10 Marie Curie: Nobel Prize Winner	(内 容) pp.78-84 (必要な準備) pp. 78 - 84の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第10回	Chapter 10 Marie Curie: Nobel Prize Winner	(内 容) pp.78-84 (必要な準備) pp. 78 - 84の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第11回	Chapter 11 Oil as an Important World Resource	(内 容) pp.86-93 (必要な準備) pp. 86 - 93の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第12回	Chapter 11 Oil as an Important World Resource	(内 容) pp.86-93 (必要な準備) pp. 86 - 93の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第13回	Chapter 12 Earthquakes: Hard to Predict	(内 容) pp.94-99 (必要な準備) pp. 94 - 99の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第14回	Chapter 12 Earthquakes: Hard to Predict	(内 容) pp.94-99 (必要な準備) pp. 94 - 99の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第15回	Review 2 (小テストChapter 10 ~ 12)	(内 容) Review 2 Chapter 10 ~ 12までの復習をする。 (必要な準備) 小テストのための家庭学習。

授業名	英語 ud			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	EnglishII			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	和田 未穂子			対象学生	食物栄養1回生			
授業の概要	リーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの4領域において総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成するが、とりわけ速読型のリーディングとリスニングに重点を置き、それを補充する形でスピーキングとライティングの学習を行う。予習をしていることを前提にテキストの内容確認と練習問題をやる。							
学習成果到達目標	<p>1) 英語基本5文型を中心とした基本的知識を獲得することができる。</p> <p>2) テキストの音声ファイルをダウンロードしnative speakerの話方を模倣し、英語のアクセント・リズム・ピッチを反復練習することで発音が正確にできるようになる。</p> <p>3) 英語四技能を段階的に修得することができる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (語彙力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	『Reading Access』 MIWAKO YAMASHINA 他 (センゲージラーニング)							
参考書	使用しない。							
留意事項	授業前には必ず、単語の意味を調べてくること。予習復習をしっかりと行うこと。辞書を持参すること。全授業の1/3以上の欠席は定期試験の受験を認めない。また、演習授業のため30分以上の遅刻は欠席扱いとする。学生の習熟度にあわせて授業するのでシラバスの進捗と異なる場合があります。							
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		英語 u d
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	Introduction	(内 容) 授業の学習計画を立てる。 (必要な準備) 本授業のシラバスを読む。教科書を事前に必ず購入し目を通しておくこと。
第2回	Chapter 7 Improving Lives with Pet Therapy	(内 容) pp. 56 - 61 (必要な準備) pp. 56 - 61の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第3回	Chapter 7 Improving Lives with Pet Therapy	(内 容) pp. 56 - 61 (必要な準備) pp. 56 - 61の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第4回	Chapter 8 A Healthy Diet for Everyone	(内 容) pp. 62-68 (必要な準備) pp. 62 - 68の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第5回	Chapter 8 A Healthy Diet for Everyone	(内 容) pp. 62-68 (必要な準備) pp. 62 - 68の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第6回	Chapter 9 Alfred Nobel: A Man of Peace	(内 容) pp.70-77 (必要な準備) pp. 70 - 77の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第7回	Chapter 9 Alfred Nobel: A Man of Peace	(内 容) pp.70-77 (必要な準備) pp. 70 - 77の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第8回	Review1 (小テストChapter 7 ~ 9)	(内 容) Chapter 7 ~ 9までの復習をする。 (必要な準備) 小テストのための家庭学習。
第9回	Chapter 10 Marie Curie: Nobel Prize Winner	(内 容) pp.78-84 (必要な準備) pp. 78 - 84の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第10回	Chapter 10 Marie Curie: Nobel Prize Winner	(内 容) pp.78-84 (必要な準備) pp. 78 - 84の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第11回	Chapter 11 Oil as an Important World Resource	(内 容) pp.86-93 (必要な準備) pp. 86 - 93の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第12回	Chapter 11 Oil as an Important World Resource	(内 容) pp.86-93 (必要な準備) pp. 86 - 93の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第13回	Chapter 12 Earthquakes: Hard to Predict	(内 容) pp.94-99 (必要な準備) pp. 94 - 99の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第14回	Chapter 12 Earthquakes: Hard to Predict	(内 容) pp.94-99 (必要な準備) pp. 94 - 99の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第15回	Review 2 (小テストChapter 10 ~ 12)	(内 容) Review 2 Chapter 10 ~ 12までの復習をする。 (必要な準備) 小テストのための家庭学習。

授業名	英語コミュニケーション u a ・ u b			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	English Communication			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	松尾 章子			対象学生	現代家政1回生			
授業の概要	自身や日常について平易な英語でコミュニケーションが取れるよう、英文作成と会話文を中心に学習する。多読と言われる英語の本読みと、TOEIC (Test of English for International Communication) テスト・保育英語検定の練習問題にも取り組む。							
学習成果到達目標	1) 既習の英語表現を使用し、自身や日常について口頭又はメールで5往復やりとりすることができる。 2) 読みやすさレベルYL0.8までの英語本を英語のまま理解することができる。 3) TOEICと保育英語用の単語(使用テキストに準ずる)の意味を250以上知っている。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	小山政史他著『A Primer of Communication in English』松柏社 2017年 佐藤誠司著『TOEIC Test Vocabulary Quizzes』南雲堂 2011年							
参考書	TOEICテスト・保育英語検定受験予定者は、各自の英語力に応じたテキスト・問題集を購入し学習に取り組むことが望ましい。 ヒ口前田著『TOEICテスト究極の模試600問』株式会社アルク 2,600円+税 社団法人保育英語検定協会著『保育英語検定3級テキスト(改訂版)』本の泉社 1,900円+税 社団法人国際子育て支援機構著『保育英語ワークブック(保育英語検定3級問題集)』本の泉社 1,363円+税							
留意事項	授業には必ず辞書を持って来てください。 提出物は期日に間に合うように提出してください。 遅刻・欠席等により小テストを受けられなかった場合、次回授業時間前までに限り追試験を受けることができます。ただし、点数の上限は8割とします。提出物についても、同じく次回授業時間前まで受け付けます。 演習授業なので、積極的な授業参加を期待します。							
オフィスアワー	研究室前に日時を掲示しますので、確認してください。							

授 業 名		英語コミュニケーション u a ・ u b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	Introduction	(内 容) 到達目標の確認、進め方の説明、自己紹介、多読紹介 (必要な準備) 本授業のシラバスを読む	
第2回	Unit 1 人 または 物 は/が~する	(内 容) 多読、pp. 4-8 (必要な準備) 本読み5冊以上、 pp. 4-8の問題	
第3回	Unit 2 人 に 物 を~する	(内 容) 多読、pp. 10-13 (必要な準備) 本読み500単語以上、 pp. 10-13の問題	
第4回	保育英語を使ったワークショップ (時間割等の都合により実施回が前後することがある)	(内 容) 保育英語を使用し、幼児や児童を対象とした理科×アートのワークショップを体験する (必要な準備) 本読み500単語以上、 ワークショップで使用する物の準備	
第5回	Quiz 1 街路・交通に関する語句 Unit 3 人や物を説明する：第2文型をとる動詞	(内 容) Lesson 1小テスト、多読、pp. 16-20 (必要な準備) Lesson 1単語練習、 本読み500単語以上、 pp. 16-20の問題	
第6回	Quiz 2 旅行に関する語句 Unit 4 人や物を説明する：第5文型をとる動詞	(内 容) Lesson 2小テスト、多読、pp. 22-25 (必要な準備) Lesson 2単語練習、 本読み500単語以上、 pp. 22-25の問題	
第7回	Quiz 3 人物の外見・動作に関する語句 Unit 5 「いつも~している」と「~した」	(内 容) Lesson 3小テスト、多読、pp. 28-32 (必要な準備) Lesson 3単語練習、 本読み1,000単語以上、 pp. 28-32の問題	
第8回	Quiz 4 住宅・不動産に関する語句 Unit 6 「これから~するつもりだ」	(内 容) Lesson 4小テスト、多読、pp. 34-38 (必要な準備) Lesson 4単語練習、 本読み1,000単語以上、 pp. 34-38の問題	
第9回	Quiz 5 買い物・値段に関する語句 Unit 7 「今~している」と「その時~していた」	(内 容) Lesson 5小テスト、多読、pp. 40-44 (必要な準備) Lesson 5単語練習、 本読み1,000単語以上、 pp. 40-44の問題	
第10回	Quiz 6 商売・取引に関する語句 Unit 8 過去のことが現在まで影響する形	(内 容) Lesson 6小テスト、多読、pp. 46-50 (必要な準備) Lesson 6単語練習、 本読み1,000単語以上、 pp. 46-50の問題	
第11回	Quiz 7 注文・運送に関する語句 Unit 9 「話し手の気持ち」を表す表現	(内 容) Lesson 7小テスト、多読、pp. 52-56 (必要な準備) Lesson 7単語練習、 本読み1,500単語以上、 pp. 52-56の問題	
第12回	Quiz 8 営業・宣伝・クレーム・保険に関する語句 Unit 10 「相手の気持ち」を表す表現	(内 容) Lesson 8小テスト、多読、pp. 58-62 (必要な準備) Lesson 8単語練習、 本読み1,500単語以上、 pp. 58-62の問題	
第13回	Quiz 9 ビジネス・会社の経営に関する語句 Unit 11 「~すること」を表す2種類の形	(内 容) Lesson 9小テスト、多読、pp. 64-68 (必要な準備) Lesson 9単語練習、 本読み1,500単語以上、 pp. 64-68の問題	
第14回	Quiz 10 会社の組織に関する語句 Unit 12 2種類の「~すること」の形を区別する方法	(内 容) Lesson 10小テスト、多読、pp. 70-74 (必要な準備) Lesson 10単語練習、 本読み1,500単語以上、 pp. 70-74の問題	
第15回	Review	(内 容) 多読、復習 (必要な準備) 本読み1,500単語以上、 既習事項で復習が必要な箇所に を付ける	

授業名	英語コミュニケーション uc・ud			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	English Communication			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	松尾 章子			対象学生	食物栄養1回生			
授業の概要	自身や日常について平易な英語でコミュニケーションが取れるよう、英文作成と会話文を中心に学習する。多読と言われる英語の本読みと、TOEIC (Test of English for International Communication) テスト・保育英語検定の練習問題にも取り組む。							
学習成果到達目標	1) 既習の英語表現を使用し、自身や日常について口頭又はメールで5往復やりとりすることができる。 2) 読みやすさレベルYL0.8までの英語本を英語のまま理解することができる。 3) TOEICと保育英語用の単語(使用テキストに準ずる)の意味を250以上知っている。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	小山政史他著『A Primer of Communication in English』松柏社 2017年 佐藤誠司著『TOEIC Test Vocabulary Quizzes』南雲堂 2011年							
参考書	TOEICテスト・保育英語検定受験予定者は、各自の英語力に応じたテキスト・問題集を購入し学習に取り組むことが望ましい。 ヒ口前田著『TOEICテスト究極の模試600問』株式会社アルク 2,600円+税 社団法人保育英語検定協会著『保育英語検定3級テキスト(改訂版)』本の泉社 1,900円+税 社団法人国際子育て支援機構著『保育英語ワークブック(保育英語検定3級問題集)』本の泉社 1,363円+税							
留意事項	授業には必ず辞書を持って来てください。 提出物は期日に間に合うように提出してください。 遅刻・欠席等により小テストを受けられなかった場合、次回授業時間前までに限り追試験を受けることができます。ただし、点数の上限は8割とします。提出物についても、同じく次回授業時間前まで受け付けます。 演習授業なので、積極的な授業参加を期待します。							
オフィスアワー	研究室前に日時を掲示しますので、確認してください。							

授 業 名		英語コミュニケーション uc・ud	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	Introduction	(内 容) 到達目標の確認、進め方の説明、自己紹介、多読紹介 (必要な準備) 本授業のシラバスを読む	
第2回	Unit 1 人 または 物 は/が~する	(内 容) 多読、pp. 4-8 (必要な準備) 本読み5冊以上、 pp. 4-8の問題	
第3回	Unit2 人 に 物 を~する	(内 容) 多読、pp. 10-13 (必要な準備) 本読み500単語以上、 pp. 10-13の問題	
第4回	Interview (時間割等の都合により実施回が前後することがある)	(内 容) 街に出て外国人に英語でインタビューを行う (必要な準備) 本読み500単語以上、 インタビュー項目作成	
第5回	Quiz 1 街路・交通に関する語句 Unit 3 人や物を説明する：第2文型をとる動詞	(内 容) Lesson 1小テスト、多読、pp. 16-20 (必要な準備) Lesson 1単語練習、 本読み500単語以上、 pp. 16-20の問題	
第6回	Quiz 2 旅行に関する語句 Unit 4 人や物を説明する：第5文型をとる動詞	(内 容) Lesson 2小テスト、多読、pp. 22-25 (必要な準備) Lesson 2単語練習、 本読み500単語以上、 pp. 22-25の問題	
第7回	Quiz 3 人物の外見・動作に関する語句 Unit 5 「いつも~している」と「~した」	(内 容) Lesson 3小テスト、多読、pp. 28-32 (必要な準備) Lesson 3単語練習、 本読み1,000単語以上、 pp. 28-32の問題	
第8回	Quiz 4 住宅・不動産に関する語句 Unit 6 「これから~するつもりだ」	(内 容) Lesson 4小テスト、多読、pp. 34-38 (必要な準備) Lesson 4単語練習、 本読み1,000単語以上、 pp. 34-38の問題	
第9回	Quiz 5 買い物・値段に関する語句 Unit 7 「今からしている」と「その時~していた」	(内 容) Lesson 5小テスト、多読、pp. 40-44 (必要な準備) Lesson 5単語練習、 本読み1,000単語以上、 pp. 40-44の問題	
第10回	Quiz 6 商売・取引に関する語句 Unit 8 過去のことが現在まで影響する形	(内 容) Lesson 6小テスト、多読、pp. 46-50 (必要な準備) Lesson 6単語練習、 本読み1,000単語以上、 pp. 46-50の問題	
第11回	Quiz 7 注文・運送に関する語句 Unit 9 「話し手の気持ち」を表す表現	(内 容) Lesson 7小テスト、多読、pp. 52-56 (必要な準備) Lesson 7単語練習、 本読み1,500単語以上、 pp. 52-56の問題	
第12回	Quiz 8 営業・宣伝・クレーム・保険に関する語句 Unit 10 「相手の気持ち」を表す表現	(内 容) Lesson 8小テスト、多読、pp. 58-62 (必要な準備) Lesson 8単語練習、 本読み1,500単語以上、 pp. 58-62の問題	
第13回	Quiz 9 ビジネス・会社の経営に関する語句 Unit 11 「~すること」を表す表現	(内 容) Lesson 9小テスト、多読、pp. 64-68 (必要な準備) Lesson 9単語練習、 本読み1,500単語以上、 pp. 64-68の問題	
第14回	Quiz 10 会社の組織に関する語句 Unit 12 2種類の「~すること」の形を区別する方法	(内 容) Lesson 10小テスト、多読、pp. 70-74 (必要な準備) Lesson 10単語練習、 本読み1,500単語以上、 pp. 70-74の問題	
第15回	Review	(内 容) 多読、復習 (必要な準備) 本読み1,500単語以上、 既習事項で復習が必要な箇所に を付ける	

授業名	英語コミュニケーション u a ・ u b			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	English Communication			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	松尾 章子			対象学生	現代家政1回生			
授業の概要	英語コミュニケーションIに引き続き、自身や日常について平易な英語でコミュニケーションが取れるよう、英文作成と会話文を中心に学習する。多読と言われる英語の本読みと、TOEIC (Test of English for International Communication) テスト・保育英語検定の練習問題にも取り組む。							
学習成果到達目標	1) 既習の英語表現を使用し、自身や日常について口頭又はメールで7往復やりとりすることができる。 2) Graded Readerの読みやすさレベルYL0.8~1.1程度の英語本を英語のまま理解することができる。 3) TOEICと保育英語用の単語(使用テキストに準ずる)の意味を400以上知っている。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	小山政史他著『A Primer of Communication in English』松柏社 2017年 佐藤誠司著『TOEIC Test Vocabulary Quizzes』南雲堂 2011年							
参考書	TOEICテスト・保育英語検定受験予定者は、各自の英語力に応じたテキスト・問題集を購入し学習に取り組むことが望ましい。 ヒ口前田著『TOEICテスト究極の模試600問』株式会社アルク 2,600円+税 社団法人保育英語検定協会著『保育英語検定3級テキスト(改訂版)』本の泉社 1,900円+税 社団法人国際子育て支援機構著『保育英語ワークブック(保育英語検定3級問題集)』本の泉社 1,363円+税							
留意事項	授業には必ず辞書を持って来てください。 提出物は期日に間に合うように提出してください。 遅刻・欠席等により小テストを受けられなかった場合、次回授業時間前までに限り追試験を受けることができます。ただし、点数の上限は8割とします。提出物についても、同じく次回授業時間前まで受け付けます。 演習授業なので、積極的な授業参加を期待します。							
オフィスアワー	研究室前に日時を掲示しますので、確認してください。							

授 業 名		英語コミュニケーション u a ・ u b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	Unit 13 「～するために」と「～して」	(内 容)	多読、pp. 76-80 (必要な準備) pp. 76-80の問題
第2回	Quiz 11 雇用・人事に関する語句 Unit 14 「～するための」と「～するという」	(内 容)	Lesson 11小テスト、多読、pp. 82-86 (必要な準備) Lesson 11単語練習、本読み500単語以上、pp. 82-86の問題
第3回	Quiz 12 勤務条件・労務管理に関する語句 Unit 15 「～される」	(内 容)	Lesson 12小テスト、多読、pp. 88-92 (必要な準備) Lesson 12単語練習、本読み1,000単語以上、pp. 88-92の問題
第4回	Quiz 13 事務・オフィスに関する語句 Unit 16 「～している」	(内 容)	Lesson 13小テスト、多読、pp. 94-98 (必要な準備) Lesson 13単語練習、本読み1,500単語以上、pp. 94-98の問題
第5回	Quiz 14 通信・連絡に関する語句 Unit 17 「～された」	(内 容)	Lesson 14小テスト、多読、pp. 100-104 (必要な準備) Lesson 14単語練習、本読み1,500単語以上、pp. 100-104の問題
第6回	Interview (時間割等の都合により実施回が前後することがある - 華頂祭の次週に実施予定)	(内 容)	街に出て外国人に英語でインタビューを行う (必要な準備) 本読み1,500単語以上、インタビュー項目作成
第7回	Quiz 15 財務・会計に関する語句 Unit 18 2つの文を1つにする方法：関係代名詞の主格と目的格	(内 容)	Lesson 15小テスト、多読、pp. 106-109 (必要な準備) Lesson 15単語練習、本読み1,500単語以上、pp. 106-109の問題
第8回	Quiz 16 契約・交渉に関する語句 Unit 19 2つの文を1つにする方法：関係代名詞の所有格とwhat	(内 容)	Lesson 16小テスト、多読、pp. 112-115、Secret Santa 1枚目提出 (必要な準備) Lesson 16単語練習、本読み1,500単語以上、pp. 112-115の問題、Secret Santa 1枚目作成
第9回	Quiz 17 会議・議論に関する語句 Unit 20 2つのものをつないでみよう	(内 容)	Lesson 17小テスト、多読、pp. 118-122、Secret Santa 2枚目提出 (必要な準備) Lesson 17単語練習、本読み2,000単語以上、pp. 118-122の問題、Secret Santa 2枚目作成
第10回	Quiz 18 マスコミ・大学に関する語句 Unit 21 疑問文を作る方法と疑問文を別の文の一部にする方法	(内 容)	Lesson 18小テスト、多読、pp. 124-128、Secret Santa 3枚目提出 (必要な準備) Lesson 18単語練習、本読み2,000単語以上、pp. 124-128の問題、Secret Santa 3枚目作成
第11回	Quiz 19 製造・研究・品質に関する語句 Unit 22 「現実離れたこと」を表す形	(内 容)	Lesson19小テスト、多読、pp. 130-134、Secret Santa 4枚目提出 (必要な準備) Lesson 19単語練習、本読み2,000単語以上、pp. 130-134の問題、Secret Santa 4枚目作成
第12回	Quiz 20 時間・地理・位置関係に関する語句 Secret Santa (時間割等の都合により実施回が前後することがある - 12月最終週の授業日に実施予定)	(内 容)	Lesson20小テスト、Secret Santa発表、Secret Santa 5枚目提出 (必要な準備) Lesson 20単語練習、本読み2,000単語以上、Secret Santa 5枚目作成
第13回	Unit 23 「2つのもの」を比べる表現	(内 容)	多読、pp. 136-140 (必要な準備) 本読み2,000単語以上、pp. 136-140の問題
第14回	Unit 24 「順位」を表す表現	(内 容)	多読、pp. 142-146 (必要な準備) 本読み2,000単語以上、pp. 142-146の問題
第15回	Review	(内 容)	多読、復習、本読み推薦文提出 (必要な準備) 本読み2,000単語以上、既習事項で復習が必要な箇所に を付ける、多読キャンペーンの推薦文(200～500文字)作成

授業名	英語コミュニケーション uc・ud			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	English Communication			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	松尾 章子			対象学生	食物栄養1回生			
授業の概要	英語コミュニケーションIに引き続き、自身や日常について平易な英語でコミュニケーションが取れるよう、英文作成と会話文を中心に学習する。多読と言われる英語の本読みと、TOEIC (Test of English for International Communication) テスト・保育英語検定の練習問題にも取り組む。							
学習成果到達目標	1) 既習の英語表現を使用し、自身や日常について口頭又はメールで7往復やりとりすることができる。 2) Graded Readerの読みやすさレベルYL0.8~1.1程度の英語本を英語のまま理解することができる。 3) TOEICと保育英語用の単語(使用テキストに準ずる)の意味を400以上知っている。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	小山政史他著『A Primer of Communication in English』松柏社 2017年 佐藤誠司著『TOEIC Test Vocabulary Quizzes』南雲堂 2011年							
参考書	TOEICテスト・保育英語検定受験予定者は、各自の英語力に応じたテキスト・問題集を購入し学習に取り組むことが望ましい。 ヒ口前田著『TOEICテスト究極の模試600問』株式会社アルク 2,600円+税 社団法人保育英語検定協会著『保育英語検定3級テキスト(改訂版)』本の泉社 1,900円+税 社団法人国際子育て支援機構著『保育英語ワークブック(保育英語検定3級問題集)』本の泉社 1,363円+税							
留意事項	授業には必ず辞書を持って来てください。 提出物は期日に間に合うように提出してください。 遅刻・欠席等により小テストを受けられなかった場合、次回授業時間前までに限り追試験を受けることができます。ただし、点数の上限は8割とします。提出物についても、同じく次回授業時間前まで受け付けます。 演習授業なので、積極的な授業参加を期待します。							
オフィスアワー	研究室前に日時を掲示しますので、確認してください。							

授 業 名		英語コミュニケーション uc・ud	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	Unit 13 「～するために」と「～して」	(内 容)	多読、pp. 76-80 (必要な準備) pp. 76-80の問題
第2回	Quiz 11 雇用・人事に関する語句 Unit 14 「～するための」と「～するという」	(内 容)	Lesson 11小テスト、多読、pp. 82-86 (必要な準備) Lesson 11単語練習、本読み500単語以上、pp. 82-86の問題
第3回	Quiz 12 勤務条件・労務管理に関する語句 Unit 15 「～される」	(内 容)	Lesson 12小テスト、多読、pp. 88-92 (必要な準備) Lesson 12単語練習、本読み1,000単語以上、pp. 88-92の問題
第4回	Quiz 13 事務・オフィスに関する語句 Unit 16 「～している」	(内 容)	Lesson 13小テスト、多読、pp. 94-98 (必要な準備) Lesson 13単語練習、本読み1,500単語以上、pp. 94-98の問題
第5回	Quiz 14 通信・連絡に関する語句 Unit 17 「～された」	(内 容)	Lesson 14小テスト、多読、pp. 100-104 (必要な準備) Lesson 14単語練習、本読み1,500単語以上、pp. 100-104の問題
第6回	Interview (時間割等の都合により実施回が前後することがある - 華頂祭の次週に実施予定)	(内 容)	街に出て外国人に英語でインタビューを行う (必要な準備) 本読み1,500単語以上、インタビュー項目作成
第7回	Quiz 15 財務・会計に関する語句 Unit 18 2つの文を1つにする方法：関係代名詞の主格と目的格	(内 容)	Lesson 15小テスト、多読、pp. 106-109 (必要な準備) Lesson 15単語練習、本読み1,500単語以上、pp. 106-109の問題
第8回	Quiz 16 契約・交渉に関する語句 Unit 19 2つの文を1つにする方法：関係代名詞の所有格とwhat	(内 容)	Lesson 16小テスト、多読、pp. 112-115、Secret Santa 1枚目提出 (必要な準備) Lesson 16単語練習、本読み1,500単語以上、pp. 112-115の問題、Secret Santa 1枚目作成
第9回	Quiz 17 会議・議論に関する語句 Unit 20 2つのものをつないでみよう	(内 容)	Lesson 17小テスト、多読、pp. 118-122、Secret Santa 2枚目提出 (必要な準備) Lesson 17単語練習、本読み2,000単語以上、pp. 118-122の問題、Secret Santa 2枚目作成
第10回	Quiz 18 マスコミ・大学に関する語句 Unit 21 疑問文を作る方法と疑問文を別の文の一部にする方法	(内 容)	Lesson 18小テスト、多読、pp. 124-128、Secret Santa 3枚目提出 (必要な準備) Lesson 18単語練習、本読み2,000単語以上、pp. 124-128の問題、Secret Santa 3枚目作成
第11回	Quiz 19 製造・研究・品質に関する語句 Unit 22 「現実離れたこと」を表す形	(内 容)	Lesson19小テスト、多読、pp. 130-134、Secret Santa 4枚目提出 (必要な準備) Lesson 19単語練習、本読み2,000単語以上、pp. 130-134の問題、Secret Santa 4枚目作成
第12回	Quiz 20 時間・地理・位置関係に関する語句 Secret Santa (時間割等の都合により実施回が前後することがある - 12月最終週の授業日に実施予定)	(内 容)	Lesson20小テスト、Secret Santa発表、Secret Santa 5枚目提出 (必要な準備) Lesson 20単語練習、本読み2,000単語以上、Secret Santa 5枚目作成
第13回	Unit 23 「2つのもの」を比べる表現	(内 容)	多読、pp. 136-140 (必要な準備) 本読み2,000単語以上、pp. 136-140の問題
第14回	Unit 24 「順位」を表す表現	(内 容)	多読、pp. 142-146 (必要な準備) 本読み2,000単語以上、pp. 142-146の問題
第15回	Review	(内 容)	多読、復習、本読み推薦文提出 (必要な準備) 本読み2,000単語以上、既習事項で復習が必要な箇所に を付ける、多読キャンペーンの推薦文(200～500文字)作成

授業名	健康スポーツ科学 u a ・ u b			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Health and Sports Science			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	石倉 忠夫			対象学生	現代家政1回生			
授業の概要	講義では運動活動が心身に及ぼす効果と運動活動の継続法について理解を深める。実技では各種スポーツがどのような運動特性に該当するかについて理解するとともに、ルールを理解し基本的な技術の習得により、生涯に亘り日常的に運動・スポーツを行う態度と能力を養う。また、体力測定を実施し、自己の運動・スポーツ実践状況の検討を加え、レポートにまとめる。							
学習成果到達目標	1) 体力測定の結果をふまえ、自己の体力の現状を認識する。 2) 運動が心身に及ぼす影響について学習し、将来における健康についての理解をスポーツの実践をとおして深める。							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (協調性)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (リーダーシップ)	課題発見・解決能力			
テキスト	使用しない。							
参考書	「健康スポーツの心理学」 竹中 晃二 編 (大修館書店)							
留意事項	必要に応じてプリントを配付する。実技を行う際は、運動に相応しい服装と上履きを必ず用意すること。							
オフィス アワー	授業終了後、体育準備室で行う。							

授 業 名		健康スポーツ科学 u a ・ u b	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	はじめに	(内 容) 本講に関するオリエンテーション (必要な準備) 筆記用具、顔写真(3cm×3cm)	
第2回	講義 1	(内 容) 運動・スポーツ活動が心身の健康に及ぼす影響 (必要な準備) 筆記用具、プリントを配付する	
第3回	講義 2	(内 容) 運動・スポーツ活動の継続法 (必要な準備) 筆記用具、プリントを配付する	
第4回	体力測定 1	(内 容) 文部科学省新体力テスト (必要な準備) 体調管理	
第5回	体力測定 2	(内 容) 文部科学省新体力テスト (必要な準備) 体調管理	
第6回	バドミントン 1	(内 容) フォア・バックハンド、サーブ、スマッシュ (必要な準備) バドミントンの基本技術を調べる	
第7回	バドミントン 2	(内 容) バドミントンの試合 (必要な準備) バドミントンのルールを調べる	
第8回	バドミントン 3	(内 容) バドミントンの試合 (必要な準備) バドミントンの戦術を調べる	
第9回	バドミントン 4	(内 容) バドミントンの試合 (必要な準備) バドミントンの戦術を調べる	
第10回	ソフトバレーボール 1	(内 容) パス、サーブ、レシーブ、スパイク (必要な準備) ソフトバレーボールの基本技術を調べる	
第11回	ソフトバレーボール 2	(内 容) ソフトバレーボールの試合 (必要な準備) ソフトバレーボールのルールを調べる	
第12回	ソフトバレーボール 3	(内 容) ソフトバレーボールの試合 (必要な準備) ソフトバレーボールの戦術を調べる	
第13回	ソフトバレーボール 4	(内 容) ソフトバレーボールの試合 (必要な準備) ソフトバレーボールの戦術を調べる	
第14回	講義 3	(内 容) 体力測定の結果を検討、評価 (必要な準備) 筆記用具	
第15回	まとめ	(内 容) レポート作成、提出 (必要な準備) 筆記用具	

授業名	健康スポーツ科学 uc・ud			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Health and Sports Science			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	山本 武司			対象学生	食物栄養1回生			
授業の概要	受講者全員に体力測定を実施する。講義では健康、体力、トレーニングについて理解を深める。実技では各種スポーツがどのような運動に該当するかについて理解するとともに、ルールを理解し基本的な技術の習得により、生涯に亘り日常的にスポーツを行う態度と能力を養う。							
学習成果到達目標	1) 体力測定の結果をふまえ、自己の体力の現状を認識する。 2) 運動が身体に及ぼす影響について学習し、将来における健康についての理解をスポーツの実践をとおして深める。							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (協調性)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (リーダーシップ)	課題発見・解決能力			
テキスト	使用しない。							
参考書	「健康・スポーツ科学講義」 出村 慎一 監修 (杏林書院)							
留意事項	必要に応じてプリントを配付する。実技を行う際は、運動に相応しい服装と上履きを必ず用意すること。							
オフィス アワー	金曜日12:10~13:00 (体育準備室)							

授 業 名		健康スポーツ科学 uc・ud
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	はじめに	(内 容) 本講に関するオリエンテーション (必要な準備) プリントを配布する
第2回	バドミントン1	(内 容) フォア・バックハンド、サーブ、スマッシュ (必要な準備) バドミントン基本技術を調べる
第3回	バドミントン2	(内 容) バドミントン・ダブルスの試合 (必要な準備) バドミントンのルールを調べる
第4回	バドミントン3	(内 容) バドミントン・ダブルスの試合 (必要な準備) バドミントン・ダブルスの戦術を調べる
第5回	バドミントン4	(内 容) バドミントン・ダブルスの試合 (必要な準備) バドミントン・ダブルスの戦術を調べる
第6回	バドミントン5	(内 容) バドミントン・ダブルスの試合 (必要な準備) バドミントン・ダブルスの戦術を調べる
第7回	講義1	(内 容) 健康と体力、運動とトレーニング (必要な準備) 配布したプリントを読んでおく
第8回	体力測定1	(内 容) 文部科学省新体力テスト (必要な準備)
第9回	体力測定2	(内 容) 文部科学省新体力テスト (必要な準備)
第10回	ソフトバレーボール1	(内 容) パス、サーブ、レシーブ、スパイク (必要な準備) ソフトバレーボールの基本技術を調べる
第11回	ソフトバレーボール2	(内 容) ソフトバレーボールの試合 (必要な準備) ソフトバレーボールの戦術を調べる
第12回	ソフトバレーボール3	(内 容) ソフトバレーボールの試合 (必要な準備) ソフトバレーボールの戦術を調べる
第13回	ソフトバレーボール4	(内 容) ソフトバレーボールの試合 (必要な準備) ソフトバレーボールの戦術を調べる
第14回	講義2	(内 容) 体力測定の結果を検討、評価 (必要な準備) 体力測定について振り返りをしておく
第15回	まとめ	(内 容) レポート作成、提出 (必要な準備)

授業名	健康スポーツ科学 u a ・ u b			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Health and Sports Science			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	石倉 忠夫			対象学生	現代家政1回生			
授業の概要	講義受講時と各種スポーツ実践時における気分と心拍数の変化を測定し、考察を加えレポートにまとめる。また、後半週には各種スポーツを実践する。							
学習成果到達目標	1) 講義受講時と各種スポーツ実践時の気分と心拍数を測定し、運動活動が心身に及ぼす影響について検討する。 2) 健康の保持増進を目的としたスポーツの実践をとおして、適切な運動強度による運動・スポーツを生涯に亘り実践する意義について理解する。							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (協調性)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (リーダーシップ)	課題発見・解決能力			
テキスト	使用しない。							
参考書	「健康スポーツの心理学」 竹中 晃二 編 (大修館書店)							
留意事項	必要に応じてプリントを配付する。実技を行う際は、運動に相応しい服装と上履きを必ず用意すること。							
オフィス アワー	授業終了後、体育準備室で行う。							

授 業 名		健康スポーツ科学 u a ・ u b
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	はじめに	(内 容) 本講に関するオリエンテーション (必要な準備) 筆記用具
第2回	講義 1	(内 容) 運動・スポーツ活動の継続法の事例 (必要な準備) 筆記用具、プリントを配付する
第3回	運動時の気分と心拍数の測定 1	(内 容) ウォーキング前後の気分と心拍数の測定 (必要な準備) 体調管理
第4回	運動時の気分と心拍数の測定 2	(内 容) ウォーキング前後の気分と心拍数の測定 (必要な準備) 体調管理
第5回	運動時の気分と心拍数の測定 3	(内 容) ウォーキング前後の気分と心拍数の測定 (必要な準備) 体調管理
第6回	各種スポーツの実践 1	(内 容) 縄跳び (必要な準備) 体調管理
第7回	各種スポーツの実践 2	(内 容) ドッジボール (必要な準備) 体調管理
第8回	バスケットボール 1	(内 容) バスケットボールの試合 (必要な準備) バスケットボールのルールを調べる
第9回	バスケットボール 2	(内 容) バスケットボールの試合 (必要な準備) バスケットボールの戦術を調べる
第10回	バスケットボール 3	(内 容) バスケットボールの試合 (必要な準備) バスケットボールの戦術を調べる
第11回	卓球 1	(内 容) 卓球の試合 (必要な準備) 卓球のルールを調べる
第12回	卓球 2	(内 容) 卓球の試合 (必要な準備) 卓球の戦術を調べる
第13回	卓球 3	(内 容) 卓球の試合 (必要な準備) 卓球の戦術を調べる
第14回	講義 2	(内 容) 測定資料の整理、検討、考察 (必要な準備) 筆記用具
第15回	まとめ	(内 容) レポート作成、提出 (必要な準備) 筆記用具

授業名	健康スポーツ科学 uc・ud			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Health and Sports Science			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	山本 武司			対象学生	食物栄養1回生			
授業の概要	運動実践時にハートレートモニターを装着し、心拍数を測定する。測定結果から各運動の運動強度を調査し、運動の内容について検討を加えレポートにまとめる。各種スポーツの実践を通して日常的にスポーツを行う態度と能力を養う。							
学習成果到達目標	1) 運動実践時の心拍数、継続時間を測定して運動強度を判定し、運動内容について検討する。 2) 健康の保持増進を目的としたスポーツの実践をとおして、適切な運動強度による運動を生涯に亘り実践する意義について理解する。							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (協調性)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (リーダーシップ)	課題発見・解決能力			
テキスト	使用しない。							
参考書	「健康・スポーツ科学講義」 出村 慎一 監修 (杏林書院)							
留意事項	必要に応じてプリントを配付する。実技を行う際は、運動に相応しい服装と上履きを必ず用意すること。 ウォーキング時は運動靴を使用すること。							
オフィス アワー	金曜日12:10~13:00 (体育準備室)							

授 業 名		健康スポーツ科学 uc・ud
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	はじめに	(内 容) 本講に関するオリエンテーション (必要な準備)
第2回	講義 1	(内 容) 健康を維持増進するための運動 (必要な準備) 配布したプリントを読んでおく
第3回	運動時心拍数の測定 1	(内 容) ウォーキング時の心拍数測定 (必要な準備) 正しい歩き方と適正強度を調べる
第4回	運動時心拍数の測定 2	(内 容) ウォーキング時の心拍数測定 (必要な準備) 正しい歩き方と適正強度の確認
第5回	運動時心拍数の測定 3	(内 容) ウォーキング時の心拍数測定 (必要な準備) 正しい歩き方と適正強度の確認
第6回	運動時心拍数の測定 4	(内 容) ウォーキング時の心拍数測定 (必要な準備) 正しい歩き方と適正強度の確認
第7回	各種スポーツの実践 1	(内 容) 綱引き (必要な準備) 綱引きについて調べる
第8回	各種スポーツの実践 2	(内 容) 大縄跳び (必要な準備) 大縄跳びについて調べる
第9回	各種スポーツの実践 3	(内 容) ドッジボール (必要な準備) ドッジボールのルールを調べる
第10回	バスケットボール1	(内 容) ドリブル、パス、シュート (必要な準備) バスケットボールの基本技術を調べる
第11回	バスケットボール 2	(内 容) バスケットボールの試合 (必要な準備) バスケットボールの戦術を調べる
第12回	バスケットボール 3	(内 容) バスケットボールの試合 (必要な準備) バスケットボールの戦術を調べる
第13回	バスケットボール 4	(内 容) バスケットボールの試合 (必要な準備) バスケットボールの戦術を調べる
第14回	講義 2	(内 容) 測定資料の検討、考察 (必要な準備) 測定資料を整理しておく
第15回	まとめ	(内 容) レポート作成、提出 (必要な準備)

授業名	人権と社会 u			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Human Rights and Society			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	湯浅 俊郎			対象学生	現代家政1回生、食物栄養1回生			
授業の概要	<p>本授業では、まず、差別と偏見の捉え方から始まり、ジェンダーの視点から、女性労働における人権の問題を中心に考察していくことを目指している。目に見える差別を観察し、その背後にある目に見えない心の闇や偏見を考えるにあたって、いくつかの研究成果を踏まえながら、現代の人権問題を考察していく。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 人権を視点に現代の女性労働の問題を捉えることができる。 2) 差別と偏見の問題を捉えることができる。 3) 日常生活の中で人権尊重の意識・態度を自己点検する姿勢を持つことができる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	適時適切に資料を配布							
参考書	適宜紹介する							
留意事項	覚える学びでなく調べ考える学びを重視する							
オフィス アワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。 オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。							

授 業 名		人権と社会 u	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 本講義の概要を理解する。 (必要な準備)	
第2回	人に備わる利他性	(内 容) 心理学以外の社会科学において「心」をどのように扱ってきたのか考察する。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。	
第3回	差別と偏見 「行動」から「心」を探る	(内 容) 我々が普段行う選択と選好の問題に関して考察する。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。	
第4回	差別と偏見 市場理論からの分析	(内 容) 市場理論から差別と偏見の問題について考察する。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。	
第5回	差別と偏見 住民の独立意向を考察する。	(内 容) スコットランドやカナダのケベック州の独立運動について考察する。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。	
第6回	ジェンダーの視点について	(内 容) ジェンダーの視点について考察する。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。	
第7回	男女の行動の違いについて リスクの取り方に性差あり?	(内 容) リスクの取り方の性差について考察する。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。	
第8回	男女の行動の違いについて 性差の刷り込みの影響	(内 容) 性差の刷り込みの影響について考察します。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。	
第9回	男女の行動の違いについて 社会環境が性差を生む?	(内 容) 社会環境により性差を生む側面について考察する。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。	
第10回	男女の行動の違いについて 女性は交渉を避ける傾向あり?	(内 容) 女性らしさというジェンダー規範の問題について考査する。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。	
第11回	男女の行動の違いについて 性差を超えた取り組みを	(内 容) 人との関わりかたの差について考察し、性差を超えた取り組みについて考える。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。	
第12回	女性労働の問題 女性の社会進出の現状	(内 容) 国際比較をまじえて女性の社会進出の現状について考察する。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。	
第13回	女性労働の問題 女性労働の壁について	(内 容) 女性労働の制度的な壁となっている問題について考察する。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。	
第14回	女性労働の問題について 社会保障のありかた	(内 容) 女性労働における社会保障のありかたについて考察する。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。	
第15回	まとめ	(内 容) 本講義のポイント整理。 (必要な準備) これまでの復習(60分)。	

授業名	情報処理 u a ・ u b ・ u e			開講学年	1・2・3・4回生	単位数	2単位	
英文名	Information Processing			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	猿渡 綾子			対象学生	現代家政1回生・2回生・3回生・4回生、食物栄養1回生・2回生			
授業の概要	現在、パーソナルコンピューターを介した記録や情報検索などが日常におこなわれ必要不可欠となっている。コンピューターを用いた基本的な情報処理スキルを習得するため、本科目では文章編集ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなどの使い方や活用方法、インターネットを用いた情報検索などについての実習をおこなう。またインターネットや情報機器を使用するにあたっての注意事項についても併せて学習する。							
学習成果到達目標	1) Microsoft Wordによる文書入力・整形、図表の作成・挿入などの操作ができるようになる 2) Microsoft Excelによるデータ入力、関数を用いた計算、グラフや表の作成・整形などができるようになる 3) Microsoft PowerPointによるスライド作成、図表の挿入・整形などができるようになる							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (実践力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	使用しない。授業毎にプリントを配布							
参考書	使用しない。							
留意事項	情報処理室のパソコンで各自作業を行いますので、入学時に配布されたユーザーIDとパスワードを毎回必ず持参してください。 2回目以降はUSBメモリにデータを保存しますので、毎回USBメモリを持参してください。容量やメーカーは問いませんので各自で準備してください。 毎回の授業の内容は前回の授業内容をふまえたものであるため、欠席をしないように心がけること。							
オフィスアワー	研究室前に日時を貼付するので、確認してください。							

授 業 名		情報処理 u a ・ u b ・ u e	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	Windowsの基本操作	(内 容)	フォルダ作成、Gメールの送受信など (必要な準備) IDとパスワード、メール利用方法の冊子を必ず持参 自分の所有する携帯電話(スマートフォン等)の契約内容(データ通信量、料金形態等)確認しておく シラバスの内容を確認する(30分)
第2回	Word 1(基本操作)	(内 容)	USBメモリ使用上の注意 コピー&貼り付け、書式設定、文字カウントなど (必要な準備) USBメモリの準備 前回の復習(30分)
第3回	Word 2(文書作成と整形)	(内 容)	文書作成 ページレイアウトの設定 インデントとTabキー、箇条書きなど (必要な準備) 前回の復習(30分)
第4回	Word 3(図入りの文書の作成)	(内 容)	図形・画像の作成・挿入 テキストの配置 Snipping Tool の使い方など (必要な準備) 前回の復習(30分)
第5回	Word 4(表作成)	(内 容)	単純な表、複雑な表の作成 (必要な準備) 前回の復習(30分) 自分の時間割がわかるものを持参
第6回	Word 5(総復習)	(内 容)	習得したテクニックを用いて課題作成 (必要な準備) 前回までの復習(30分)
第7回	Excel 1(基本操作)	(内 容)	セル・シートの解説 データ入力 簡単な計算式など (必要な準備) 前回の復習(30分)
第8回	Excel 2(表計算)	(内 容)	合計、平均、最大値・最小値、四捨五入、IF関数など 式のコピー (必要な準備) 前回の復習(30分)
第9回	Excel 3(作表と印刷設定)	(内 容)	罫線、文字の配置 セルの挿入・削除・結合 印刷設定など (必要な準備) 前回の復習(30分)
第10回	Excel 4(グラフ)	(内 容)	棒・折線・円・複合などのグラフ Wordとのリンク (必要な準備) 前回の復習(30分)
第11回	Excel 5(総復習)	(内 容)	分析とグラフ作成の実践 (必要な準備) 前回の復習(30分)
第12回	PowerPoint 1(基本操作)	(内 容)	スライドサイズの変更 スライドマスターの編集 箇条書き、インデント、Tabキーの使い方 画像の加工、アニメーションの設定 (必要な準備) 前回の復習(30分)
第13回	PowerPoint 2(Word、Excelとの連携)	(内 容)	グラフ、表の作成 ノートの記入 印刷設定 (必要な準備) 前回までの復習(30分)
第14回	PowerPoint 3(総復習) インターネット・リテラシー	(内 容)	習得したテクニックを用いて課題作成 インターネットを使用する上で注意すべき点について学習する (必要な準備) 前回の復習(30分)
第15回	PowerPoint 4(プレゼンテーション)	(内 容)	PowerPoint を使用したプレゼンテーションの実際 (必要な準備) プレゼンテーションの準備 前回の復習(30分)

授業名	情報処理 u c ・ u d			開講学年	1・2・3・4回生	単位数	2単位	
英文名	Information Processing			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	岩佐 真代			対象学生	現代家政1回生・2回生・3回生・4回生、食物栄養1回生・2回生			
授業の概要	現在、パーソナルコンピューターを介した記録や情報検索などが日常におこなわれ必要不可欠となっている。コンピューターを用いた基本的な情報処理スキルを習得するため、本科目では文章編集ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなどの使い方や活用方法、インターネットを用いた情報検索などについての実習をおこなう。また、インターネットや情報機器を使用するにあたっての注意事項についても併せて学習する。							
学習成果到達目標	1) Microsoft Wordによる文書入力・整形、図表の作成・挿入などの操作ができるようになる 2) Microsoft Excelによるデータ入力、関数を用いた計算、グラフや表の作成・整形などができるようになる 3) Microsoft PowerPointによるスライド作成、図表の挿入・整形などができるようになる							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (実践力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)
テキスト	使用しない。授業毎にプリントを配布							
参考書	使用しない。							
留意事項	情報処理室のパソコンで各自作業を行いますので、入学時に配布されたユーザーIDとパスワードを毎回必ず持参してください。 2回目以降はUSBメモリにデータを保存しますので、毎回USBメモリを持参してください。容量やメーカーは問いませんので各自で準備してください。 毎回の授業の内容は前回の授業内容をふまえたものであるため、欠席をしないように心がけること。							
オフィスアワー	研究室前に日時を貼付するので、確認してください。							

授 業 名		情報処理 u c ・ u d	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	Windowsの基本操作	(内 容)	フォルダ作成、Gメールの送受信など (必要な準備) IDとパスワード、メール利用方法の冊子を必ず持参 自分の所有する携帯電話(スマートフォン等)の契約内容(データ通信量、料金形態等)を確認しておく シラバスの内容を確認する(30分)
第2回	Word 1(基本操作)	(内 容)	USBメモリ使用上の注意 コピー&貼り付け、書式設定、文字カウントなど (必要な準備) USBメモリの準備 前回の復習(30分)
第3回	Word 2(文書作成と整形)	(内 容)	文書作成 ページレイアウトの設定 インデントとTabキー、箇条書きなど (必要な準備) 前回の復習(30分)
第4回	Word 3(図入りの文書の作成)	(内 容)	図形・画像の作成・挿入 テキストの配置 Snipping Toolの使い方など (必要な準備) 前回の復習(30分)
第5回	Word 4(表作成)	(内 容)	単純な表、複雑な表の作成 (必要な準備) 前回の復習(30分) 自分の時間割がわかるものを持参
第6回	Word 5(総復習)	(内 容)	習得したテクニックを用いて課題作成 (必要な準備) 前回の復習(30分)
第7回	Excel 1(基本操作)	(内 容)	セル・シートの解説 データ入力 簡単な計算式など (必要な準備) 前回の復習(30分)
第8回	Excel 2(表計算)	(内 容)	合計、平均、最大値・最小値、四捨五入、IF関数など 式のコピー (必要な準備) 前回の復習(30分)
第9回	Excel 3(作表と印刷設定)	(内 容)	罫線、文字の配置 セルの挿入・削除・結合 印刷設定など (必要な準備) 前回の復習(30分)
第10回	Excel 4(グラフ)	(内 容)	棒・折線・円・複合などのグラフ Wordとのリンク (必要な準備) 前回の復習(30分)
第11回	Excel 5(総復習)	(内 容)	分析とグラフ作成の実践 (必要な準備) 前回の復習(30分)
第12回	PowerPoint 1(基本操作)	(内 容)	スライドサイズの変更 スライドマスターの編集 箇条書き、インデント、Tabキーの使い方 画像の加工、アニメーションの設定 (必要な準備) 前回の復習(30分)
第13回	PowerPoint 2(Word、Excelとの連携)	(内 容)	グラフ、表の作成 ノートの記入 印刷設定 (必要な準備) 前回の復習(30分)
第14回	PowerPoint 3(総復習) インターネット・リテラシー	(内 容)	習得したテクニックを用いて課題作成 インターネットを使用する上で注意すべき点について学習する (必要な準備) 前回の復習(30分)
第15回	PowerPoint 4(プレゼンテーション)	(内 容)	PowerPointを使用したプレゼンテーションの実際 (必要な準備) プレゼンテーションの準備 前回の復習(30分)

授業名	情報処理論			開講学年	1・2・3・4回生	単位数	2単位	
英文名	Information Processing			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	秋山 裕之			対象学生	現代家政1回生・2回生・3回生・4回生、食物栄養1回生・2回生			
授業の概要	今日の社会は情報処理技術なくしては成り立たない。企業活動、公共サービス、医療、教育はもちろん、娯楽やショッピングなどの家庭生活を含む日常のあらゆるところでコンピュータによる情報処理が行われている。本科目ではコンピュータのなりたちや情報処理システムの仕組みについて基礎的な知識を得るとともに、利用者の立場から情報セキュリティやインターネットリテラシーなどについて学びを深める。							
学習成果到達目標	1) 情報処理技術について広範囲に基礎的な知識を得る 2) 情報処理システムの仕組みを理解し、知識を活用できるようになる							
評価方法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テキスト	使用しない。							
参考書	随時指示する。							
留意事項	カタカナやアルファベットの専門用語が多く出てきますが、できるだけかみ砕いて説明したいと思います。予習必須。							
オフィス アワー	週に1時間×1回設定。曜日・時間帯は学生演習室にて掲示。							

授 業 名		情報処理論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	イントロダクション～コンピュータとは	(内 容) コンピュータの仕組み (必要な準備) シラバスを読んでくる(5分)	
第2回	ハードウェアとソフトウェア	(内 容) コンピュータを構成するパーツとプログラム (必要な準備) キーワード予習(30分)	
第3回	プログラムとアルゴリズム	(内 容) アルゴリズムとは何か、2進数と16進数 (必要な準備) キーワード予習(30分)	
第4回	コンピュータ言語	(内 容) RUBY、C、BASIC、JavaScript、JAVAなど (必要な準備) キーワード予習(30分)	
第5回	ユーザインタフェース	(内 容) さまざまなUI、ユーザビリティ (必要な準備) キーワード予習(30分)	
第6回	コンピュータネットワーク	(内 容) LAN、WAN、PAN、通信インフラ (必要な準備) キーワード予習(30分)	
第7回	インターネット	(内 容) WWWの仕組み (必要な準備) キーワード予習(30分)	
第8回	データベース	(内 容) データベースの仕組みと活用 (必要な準備) キーワード予習(30分)	
第9回	情報セキュリティ	(内 容) ウイルス、個人情報保護、暗号化 (必要な準備) キーワード予習(30分)	
第10回	インターネットリテラシー	(内 容) SNS、情報の真偽、著作権、肖像権 (必要な準備) キーワード予習(30分)	
第11回	情報処理システム1	(内 容) 情報処理システムの概要と設計 (必要な準備) キーワード予習(30分)	
第12回	情報処理システム2	(内 容) 情報処理システムの開発 (必要な準備) キーワード予習(30分)	
第13回	情報処理システム3	(内 容) 情報処理システムの運用と管理 (必要な準備) キーワード予習(30分)	
第14回	情報(化)社会	(内 容) 暮らしと情報処理 (必要な準備) キーワード予習(30分)	
第15回	これからのコンピュータ	(内 容) AI、バーチャルリアリティ、感性情報処理 (必要な準備) キーワード予習(30分)	

授 業 名	地球環境学			開 講 学 年	4回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Environmental Science			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	太田 真人			対 象 学 生	現代家政4回生			
授業の概要	多くの生物が生活をしている地球の歴史や構造を学び、現代に引き起っている地球規模や地域規模の問題がどのような事象・現象に起因しているか学ぶ。また、そこから今後どのようなことに取り組んでいくべきなのかを考える。							
学 習 成 果 到 達 目 標	1) 地球の創世からの歴史を学び、地球と私達の環境の現状について論じる力を付ける。 2) 将来の人類のあり方や環境問題への対処法について自然科学的視点で自分の立場を明確に出来る。							
評 価 方 法	定期試験 (90 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (10 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	講義のはじめに資料を配布するので特に準備するものはない。							
参 考 書	随時指示する。							
留 意 事 項	自分たちが生まれ住んでいる地球について学び、今世界が抱えている環境問題について知る。そして今後、自分たちや後世まで地球環境を守っていくためにはどのようにするのが良いかなど関心を持ってもらいたい。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		地球環境学
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	地球の誕生	(内 容) 授業の概要説明。地球環境を学ぶためにも地球の歴史を知る (必要な準備) 地球の環境問題について予習しておく
第2回	生物の進化1	(内 容) 生命の誕生、生物の進化について学ぶ (必要な準備) 生物の進化について予習しておく
第3回	生物(人類)の進化2	(内 容) 人類の進化について学ぶ (必要な準備) 人類の進化について予習しておく
第4回	大気環境	(内 容) 大気の種類や仕組みについて学ぶ (必要な準備) 大気環境の問題について予習しておく
第5回	地球温暖化	(内 容) 地球温暖化について学ぶ (必要な準備) 地球温暖化について予習しておく
第6回	水環境	(内 容) 地球の水環境や循環構造について学ぶ (必要な準備) 水環境について予習しておく
第7回	近畿圏における琵琶湖	(内 容) 近畿圏において琵琶湖の存在の重要性を学ぶ (必要な準備) 琵琶湖について予習しておく
第8回	生物多様性	(内 容) 生物多様性の意義と重要性について学ぶ (必要な準備) 生物多様性について予習しておく
第9回	外来種問題	(内 容) 外来種が在来種へ与える影響について学ぶ (必要な準備) 外来種について予習しておく
第10回	森林問題	(内 容) 地球規模で減少している森林について学ぶ (必要な準備) 森林伐採などについて予習しておく
第11回	食と農業	(内 容) 生きていくために必要な食物とそれらを生産する農業や漁業について学ぶ (必要な準備) 農業や漁業について予習しておく
第12回	里山の歴史と問題	(内 容) 里山的管理の重要性が求められる中で実際の里山と何か、里山的管理とは何かについて学ぶ (必要な準備) 里山について予習しておく
第13回	エネルギー問題	(内 容) 火力・水力・原子力など多様な方法で電気を生み出している現代において、その利用方法や付き合い方について学ぶ (必要な準備) エネルギー問題について予習しておく
第14回	ごみ問題	(内 容) 生活していると必ず出るごみ。ごみの処理方法や問題、法律について学ぶ (必要な準備) ごみ問題について予習しておく
第15回	都市環境	(内 容) 都市化が進むことによって生まれてきた問題や自然との共生の仕方について考える (必要な準備) 都市環境について予習しておく

授業名	いのちの科学 u a			開講学年	1・2・3・4回生	単位数	2単位	
英文名	Life Science			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	山本 明美			対象学生	現代家政1回生・2回生・3回生・4回生			
授業の概要	<p>生命進化を生化学的に概観するとともに、地球の環境変化との相互関係を解説する。 1．生命の科学的定義 2．生命進化 3．地球の環境変化 4．個体発生 5．発生過程の生化学的変化</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 生命に対する科学的概念が確立できる。 2) 生命進化に対する地球環境の影響を理解できる。 3) 個体発生過程を理解できる。 4) 最新のバイオテクノロジーに関心を持ち、関連の新聞記事が理解できる。</p>							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (汎用的能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	プリント							
参考書	視覚でとらえるフォトサイエンス「生物図鑑」鈴木孝仁監修 数研出版、NHKプロジェクト『地球大進化』(NHK出版)。							
留意事項	生物学、化学、地学などの学問領域にこだわることなく、最新の知見に基づき総合的に思考、理解して欲しい。							
オフィス アワー	初回の授業で連絡します。							

授 業 名		いのちの科学 u a	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	生命とは	(内 容) 生命の科学的定義 (必要な準備) 生命とは何かについて考えてみる	
第2回	進化とたん白質	(内 容) たん白質に残された進化の化学的痕跡 (必要な準備) たん白質について調べておく	
第3回	進化とDNA	(内 容) DNAに残された進化の化学的痕跡 (必要な準備) DNAについて調べておく	
第4回	地球の歴史	(内 容) 地球および生命の誕生過程 (必要な準備) 地球の歴史について調べておく	
第5回	大陸移動	(内 容) 大陸の移動およびそのエネルギー源 (必要な準備) 大陸移動について調べておく	
第6回	全球凍結	(内 容) 全球凍結による大量絶滅 (必要な準備) たん白質について調べておく	
第7回	生物進化	(内 容) 大量絶滅による生物進化の推進 (必要な準備) 生物の進化について調べておく	
第8回	ヒトの起源	(内 容) 哺乳類およびヒトの誕生 (必要な準備) ヒトの誕生・起源について調べておく	
第9回	出アフリカ	(内 容) ヒトが地球上に拡散した過程 (必要な準備) 出アフリカについて調べておく	
第10回	日本人の起源	(内 容) 日本人の構成 (必要な準備) 日本人の起源について調べておく	
第11回	南北モンゴロイド	(内 容) 南北モンゴロイドの移動 (必要な準備) 南北モンゴロイドについて調べておく	
第12回	受精	(内 容) 受精の過程 (必要な準備) 受精の過程について調べておく	
第13回	個体発生	(内 容) 妊娠の過程 (必要な準備) 妊娠の過程について調べておく	
第14回	バイオテクノロジー	(内 容) クローン羊の意義 (必要な準備) バイオテクノロジーについて調べておく	
第15回	再生医療	(内 容) ES細胞、iPS細胞の意義 (必要な準備) 再生医療について調べておく	

授業名	いのちの科学 u b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Life Science			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	小西 憲子			対象学生	食物栄養1回生・2回生			
授業の概要	<p>生命を科学的に考察する。生命誕生からヒトの起源と種の進化を生化学的に分析するとともに、地球の環境変化との相互関係を解説する。</p> <p>1. 生命の科学的定義 2. 生命進化 3. 地球の環境変化 4. 個体発生 5. 発生過程の生化学的変化 6. 遺伝子医療やiPS細胞も含めた再生医療についても学ぶ。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 生命に対する科学的概念が確立できる。</p> <p>2) 生命進化に対する地球環境の影響を理解できる。</p> <p>3) 個体発生過程を理解できる。</p> <p>4) 最新のバイオテクノロジーに関心を持ち、関連の新聞記事が理解できる。</p>							
評価方法	定期試験 (100%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 (ウイルスを含めた生物全体の生命科学の理解)			課題発見・解決能力			()
テキスト	「現代生命科学」 東京大学生命科学教科書編集委員会/編 羊土社							
参考書	視覚でとらえるフォトサイエンス「生物図鑑」鈴木孝仁監修 数研出版							
留意事項	医学・科学の進歩についていける最低の知識を持てるようになること。							
オフィス アワー	初回の授業で連絡します。							

授 業 名		いのちの科学 u b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	生命科学と現代社会のかかわり	(内 容) 生命の科学的定義、ヒトの起源と進化、生命とは何かについて考えてみる。 (必要な準備) テキスト第1章を読んでおく	
第2回	生命はどのように設計されているか	(内 容) 細胞のなりたちや遺伝について (必要な準備) テキスト第2章を読んでおく	
第3回	ゲノム情報はどのように発現するのか	(内 容) 個人差・遺伝はどのような仕組みによるのか (必要な準備) テキスト第3章を読んでおく	
第4回	生命の仕組み	(内 容) 動物の発生・進化から成長と老化について、再生医療について (必要な準備) テキスト第4章を読んでおく	
第5回	脳について	(内 容) ヒトの脳の構造と生命活動とのかかわり、認知症について (必要な準備) テキスト第5章を読んでおく	
第6回	がんにつて	(内 容) がんとはどのような現象か、診断・治療も含めて。 (必要な準備) テキスト第6章を読んでおく	
第7回	食と健康の関係	(内 容) ヒトの体の代謝経路、生命活動に大事なエネルギーについて (必要な準備) テキスト第7章を読んでおく	
第8回	ヒトと病原体	(内 容) 感染症と免疫について (必要な準備) テキスト第8章を読んでおく	
第9回	環境と生物のかかわり	(内 容) 生物と環境の相互作用について (必要な準備) テキスト第9章を読んでおく	
第10回	生命科学技術の進歩について	(内 容) バイオ技術による新しい医薬品生産 (必要な準備) テキスト第10章を読んでおく	
第11回	生命倫理について	(内 容) 生命倫理・医療に対する宗教の介入、人権の問題など (必要な準備) テキスト第11章を読んでおく	
第12回	生命や生物の不思議を理解	(内 容) 生命を科学的にみる (必要な準備) テキスト第12章を読んでおく	
第13回	受精・妊娠について	(内 容) 妊娠の過程 (必要な準備) 受精卵について調べておく	
第14回	バイオテクノロジー、再生医療	(内 容) 医学への応用、ES細胞・iPS細胞の意義 (必要な準備) バイオテクノロジー・再生医療について調べておく	
第15回	まとめ	(内 容) 全体的なまとめを行い、理解度をみる (必要な準備) 科目(テキスト第1章から12章)の復習	

授業名	京都の歴史u			開講学年	1・2・3・4回生	単位数	2単位	
英文名	History of Kyoto			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	工藤 美和子			対象学生	現代家政1回生・2回生・3回生・4回生、食物栄養1回生、2回生			
授業の概要	京都で育まれた文化、伝統、歴史について学ぶ。							
学習成果到達目標	1 教養として知っておくべき歴史知識を習得するとともに、京都の魅力について学ぶ。							
評価方法	定期試験 (100%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (講義中に行う小テスト)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (講義に対する意欲)	課題発見・解決能力			
テキスト	担当教員が資料を準備し配布する。配布資料は忘失しないこと。							
参考書	特になし。							
留意事項	講義中の私語・携帯・スマホの使用は厳禁。学生の本分は学ぶことと考え講義にのぞむこと。 小テストも評価基準として考慮する。							
オフィス アワー	第1回講義にて指示する。							

授 業 名		京都の歴史 u	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	ガイドンス	(内 容) ガイドンス (必要な準備) ガイドンスの内容を聞いておくこと(90分)	
第2回	平安京の誕生	(内 容) 京都はなぜへいあんきょうに選ばれたのか。 (必要な準備) 講義をよく聞いておくこと(90分)	
第3回	京の祭－葵祭	(内 容) 葵祭について学ぶ。 (必要な準備) 講義をよく聞いておくこと(90分)	
第4回	京の祭－祇園祭	(内 容) 祇園祭について学ぶ。 (必要な準備) 講義をよく聞いておくこと(90分)	
第5回	京と自然環境	(内 容) 京都と自然について学ぶ。 (必要な準備) 講義をよく聞いておくこと(90分)	
第6回	京都の寺社－ご利益を求めて	(内 容) 京都の寺社について学ぶ。 (必要な準備) 講義をよく聞いておくこと(90分)	
第7回	京都の寺社－お守り	(内 容) お守り文化について学ぶ。 (必要な準備) 講義をよく聞いておくこと(90分)	
第8回	京都の昔話	(内 容) 京都に伝わる昔話について知る。 (必要な準備) 講義をよく聞いておくこと(90分)	
第9回	京の怪異	(内 容) 京に伝わる怪異話について知る。 (必要な準備) 講義をよく聞いておくこと(90分)	
第10回	京の生活文化－京ことば	(内 容) 京ことばについて学ぶ。 (必要な準備) 講義をよく聞いておくこと(90分)	
第11回	京の生活文化－信仰生活	(内 容) 京の人々と信仰生活について学ぶ。 (必要な準備) 講義をよく聞いておくこと(90分)	
第12回	京の生活文化－路地	(内 容) 京の路地(ろおじ)について知る。 (必要な準備) テキスト該当部分を読んでおくこと	
第13回	京の花街	(内 容) 花街に生きる人々(舞妓と芸妓)について知る。 (必要な準備) 講義をよく聞いておくこと(90分)	
第14回	京の食生活－行事食	(内 容) 京の行事食について知る。 (必要な準備) 講義をよく聞いておくこと(90分)	
第15回	京の食生活－京菓子	(内 容) 京菓子まままでの歴史。 (必要な準備) 講義をよく聞いておくこと(90分)	

授業名	こころの科学 u			開講学年	1・2・3・4回生	単位数	2単位	
英文名	Mental Science			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	小川 徳子			対象学生	現代家政1回生・2回生・3回生・4回生、食物栄養1回生・2回生			
授業の概要	心理学が“人間の心の働きと行動を理解する”ために、どのような研究をおこない、その結果何が明らかになってきたのか、解説する。視聴覚教材や配付資料を用い、主に、実験系の心理学によって蓄積されてきた知見を取り上げて紹介する。							
学習成果到達目標	1) 心理学の基礎領域について、全体像を把握する。 2) 心の働きにはどのようなものがあるのか、理解する。 3) 人の心の動きについて、科学的・合理的に判断し、その内容を自分なりに説明できるようになる。							
評価方法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (論理的な記述力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	心理学 心のはたらきを知る 第2版(コンパクト新心理学ライブラリ)							
参考書	北尾 倫彦、中島 実、他(1997)グラフィック心理学 サイエンス社							
留意事項	ほぼ毎回、授業時間内に提出を求めるショートレポート課題あり。							
オフィスアワー	担当授業の開始前か終了後に実施する。							

授 業 名		こころの科学 u	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	心理学とは	(内 容)	心理学の基礎領域 (必要な準備)
第2回	感覚・知覚・認知	(内 容)	情報を取り入れる働き (必要な準備) 五感と心の関係とは?説明してみよう
第3回	記憶(1)	(内 容)	「覚える」・「忘れる」働き (必要な準備) 記憶にはどんな種類がある?考えておこう
第4回	記憶(2)	(内 容)	記憶の発達 (必要な準備) 記憶の何が変わると発達?考えておこう
第5回	言語(1)	(内 容)	ことばの働き (必要な準備) ことばの働きとは何?考えておこう
第6回	言語(2)	(内 容)	ことばの発達過程 (必要な準備) ことばの習得に必要な力は?考えておこう
第7回	思考(1)	(内 容)	「考える」働き (必要な準備) 「考える」とは何すること?説明してみよう
第8回	思考(2)	(内 容)	思考の発達 (必要な準備) 言語と思考のつながりを説明してみよう
第9回	行動	(内 容)	学習と動機づけ (必要な準備) 人の行動を変える要因とは?考えておこう
第10回	感情	(内 容)	感情と他の心の働きの関係 (必要な準備) 「感情」はどんな働き?説明してみよう
第11回	自己の認知	(内 容)	「自分」という存在に気づく (必要な準備) 自分を知る手がかりとは?考えておこう
第12回	知能	(内 容)	知的な能力とは何か (必要な準備) 「知能」について説明してみよう
第13回	パーソナリティ	(内 容)	個性の捉え方 (必要な準備) 自分や友人の性格を説明してみよう
第14回	社会的認知	(内 容)	他者の捉え方 (必要な準備) 他者の印象を左右するのは?考えておこう
第15回	社会的行動	(内 容)	他者との関り (必要な準備) 集団で行動する時の傾向とは?考えておこう

授業名	社会学概論			開講学年	1・2・3・4回生	単位数	2単位
英文名	Introduction to Sociology			開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	湯浅 俊郎			対象学生	現代家政1回生・2回生・3回生・4回生、食物栄養1回生・2回生		
授業の概要	人間関係のありかたを視点に、「何故、我々は悩むのか?」という日常生活の身近な問題を出発点として、映像資料を用いながら、次のように授業を進めていきます。まず、人の中で生じる相互作用についての考察から初めて、個人の側から現代社会のありかたを捉えていきます。次に、グローバル化という大きな社会現象から現代社会のありかたを捉えることを通じて、その現象によって個人のありかたはどのように変わったのかを捉えて行きます。これらのことを通じて、現代社会のありかたについて考察していきます。						
学習成果到達目標	1) 物事を観察する力を身につけ、現代社会のありかたを「自分なり」に客観的に分析することができるようになる。 2) 人とのつながりを視点に、日常の問題を分析することができるようになる。 3) 自分なりの視点で、新聞やニュースを見ることができるようになる。						
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)		
テキスト	授業時に資料を配布します。						
参考書	『社会学』長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志編，有斐閣 2007年。						
留意事項	普段の生活においても、新聞やニュース、ドキュメンタリー報道には目を通すように心がけ、授業で習ったことを、実際に日常の出来事に適用・応用し、授業中課題（ミニッツペーパー）にも、その成果を出せるようにする。（授業の進展度合いにより予定の変更もある）						
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。 オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。						

授 業 名		社会学概論
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 授業の内容と進め方について説明します。 (必要な準備)
第2回	現代の社会問題について	(内 容) 人間関係を視点に現代の社会問題を考察することの有効性を説明します。 (必要な準備) 日常生活における自分の人間関係をめぐる問題について整理してください(60分)。
第3回	人間の相互作用について	(内 容) 日常生活における分析に適用・応用できる人の間で生じる相互作用のありかたの類型について説明する。 (必要な準備) 自分の家族や友人など、どのような内容を持つ関係なのか整理してみてください(60分)。
第4回	相互作用の類型について	(内 容) 「人間の相互作用」を踏まえた上で、映像資料を通じて、人間の感情の動きを考察して行きます。 (必要な準備) 日常における自分の人間関係を分析し、整理してみてください(60分)。
第5回	人間関係の変化について	(内 容) 「人間の相互作用」を踏まえた上で、相互作用を通じた人間関係の変化について考察して行きます。 (必要な準備) 授業で習ったことを適用・応用し、映像資料から見える人間関係を分析してみてください(60分)。
第6回	人間の絆について	(内 容) 現代の社会において「人間の絆」はどのように捉えられるのかについて考察して行きます。 (必要な準備) 自分の身の周りに存在する「人間の絆」について整理してみてください(60分)。
第7回	人間の絆についての分析	(内 容) 映像資料を用いて、「人間の絆」についての考察を深めて行きます。 (必要な準備) 日常生活における「人間の絆」について、その純粋性とは何かを考察してみてください(60分)。
第8回	人間の絆とは何か	(内 容) 「人間の絆について」を踏まえた上で、「純粋な人間関係」について考察を進めて行きます。 (必要な準備) 授業で習ったことを適用・応用し、映像資料を素材に「純粋な人間の絆」について考察してみてください(60分)。
第9回	組織と個人について	(内 容) 人間は、どのようにすれば「一致団結=まとまる」ことができるのか。ここでは「組織」を捉える枠組みについて考察して行きます。 (必要な準備) 自分が、これまで所属している・してきた組織(クラブなど)は、どのように運営されていたのか、整理してみてください(60分)。
第10回	組織と個人についての分析	(内 容) ここでは「組織と個人について」を踏まえて、映像資料も参考にしながら、組織のありかたについて考察して行きます。 (必要な準備) 組織に関する分析組みを用いて、自分が所属していた・している組織を分析してみてください(60分)。
第11回	組織と個人の関係とは	(内 容) クラブ活動などの経験を事例に、人間は、どうすれば、一致団結し、まとまるのか、を考察して行きます。 (必要な準備) 授業で習ったことを適用・応用し、映像資料から見える「組織と個人のありかた」について分析してみてください(60分)。
第12回	グローバル化について	(内 容) グローバル化の進展により、どのような社会問題が生じているのか、説明して行きます。 (必要な準備) 食や衣服など、自分の身の周りの商品が、どこで作られているのか、注意深く観察してみてください(60分)。
第13回	グローバル化の現状	(内 容) グローバル化が進展していく中で、必要となる異文化の理解について考察して行きます。 (必要な準備) 授業で習ったことを適用・応用し、映像資料から見える「グローバル化」という現象を分析してみてください(60分)。
第14回	日常生活を振り返って - 人間関係	(内 容) 日常の身近な生活の問題に振り返って、コミュニケーションの問題について検討して行きます。 (必要な準備) 仲間同士で盛り上がっているときなど、メンバーは、それぞれ、どのような役割を果たしているのか考察してみてください(60分)。
第15回	日常生活を振り返って - コミュニケーション	(内 容) 人間がいかに他者との関係のなかで自己を表現しようとしているか、いかに他者の存在を理解しようとしているか、そのなかで生じる相互作用について考察して行きます。 (必要な準備) 授業で習ったことを適用・応用し、映像資料を素材に、「コミュニケーションのありかた」を考察してみてください(60分)。

授業名	くらしと法律（日本国憲法）			開講学年	1・2・3・4回生	単位数	2単位	
英文名	Law and Our living (The Constitution of Japan)			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	渡辺 暁彦			対象学生	現代家政1回生・2回生・3回生・4回生、食物栄養1回生、2回生			
授業の概要	小・中学校や高等学校などでの憲法学習で得られた知識をもとに、より体系的に日本国憲法の全体像を理解することを主な目的とします。特に、私たちの人権をめぐる問題を中心に、あらためて憲法の意義や役割について考え直してみたいと思います。それは、市民としての私たちの責務を自覚することでもあります。							
学習成果到達目標	1) 日本国憲法、特に人権に関する基本問題や概念を分かりやすく説明することができる。 2) 日本国憲法とその運用について、私たちの身近な生活と結びつけて理解できる。 3) 市民としての私たちの責務を自覚できる。							
評価方法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	吉田仁美編『スタート憲法〔第2版補訂版〕』（成文堂、2016年） *詳細については、参考文献のことも含めて初回に説明します。							
参考書	芦部信喜『憲法〔第六版〕』（岩波書店、2015年）、吉田仁美・渡辺暁彦『憲法判例クロニクル』（ナカニシヤ出版、2016年）、その他、授業中に指示します。							
留意事項	日々の新聞および雑誌記事の切り抜きを課題とします。それら日々の出来事・事件などから「人権」についての理解につとめていただきます。時事的な話題を適宜取り上げますので、その関連で授業計画を一部変更することもあります。							
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。							

授業名	くらしと法律（日本国憲法）	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	法とは何か、そして憲法とは？	（内 容）社会規範としての法、法の体系などについて学ぶ。 （必要な準備）シラバス及びテキストの目次、プロローグに目を通しておくこと。（30分）
第2回	比較のなかの日本国憲法	（内 容）憲法の歴史、諸外国の憲法との比較、最高法規としての憲法。 （必要な準備）「憲法とは何か」について復習しておくこと。（30分）
第3回	日本国憲法の成立過程を振り返る	（内 容）日本国憲法の成立過程を振り返りながら、憲法の意義や目的について学ぶ。 （必要な準備）テキスト「日本国憲法の成立」に目を通しておくこと。（30分）
第4回	人権とは何かを考える	（内 容）人権の観念、私人間効力をめぐる問題について学ぶ。 （必要な準備）テキスト「基本的人権総論」に目を通しておくこと。（30分）
第5回	人権は誰のもの？	（内 容）人権の享有主体性について学ぶ。 （必要な準備）テキスト第2章に目を通しておくこと。（30分）
第6回	人権保障の現在（1）包括的基本権、自己決定権、プライバシー	（内 容）個人の尊重と公共の福祉について学ぶ。 （必要な準備）テキスト第3章に目を通しておくこと。（30分）
第7回	人権保障の現在（2）法の下での平等	（内 容）自由と平等について学ぶ。 （必要な準備）テキスト第4章に目を通しておくこと。また、皆さんの身のまわりで「これは平等に反するのではないか」と考えたことを箇条書きにしておくこと。（1時間）
第8回	人権保障の現在（3）精神的自由、思想・良心の自由、表現の自由	（内 容）思想・良心の自由、表現の自由とその制約。 （必要な準備）テキスト第5章、第6章、第7章の「考えてみよう」の部分について目を通しておくこと。（30分）
第9回	人権保障の現在（4）経済的自由、二重の基準	（内 容）経済的自由と様々な規制のあり方について学ぶ。 （必要な準備）テキスト第8章に目を通しておくこと。（30分）
第10回	人権保障の現在（5）社会権ほか	（内 容）特に、教育を受ける権利を中心に、社会権の保障について学ぶ。 （必要な準備）テキスト第9章、第10章に目を通しておくこと。（30分）
第11回	人権保障と権力分立	（内 容）人権保障とそのため制度的基盤や政党の役割について学ぶ。 （必要な準備）テキスト「統治機構総論」に目を通しておくこと。（30分）
第12回	民主政治のしくみ（1）国会	（内 容）国会の地位と構成、国会の権能などについて学ぶ。 （必要な準備）テキスト第11章、第12章に目を通しておくこと。（30分）
第13回	民主政治のしくみ（2）内閣	（内 容）議院内閣制、行政の民主的コントロールなどについて学ぶ。 （必要な準備）テキスト第13章に目を通しておくこと。（30分）
第14回	民主政治のしくみ（3）裁判所	（内 容）裁判所の役割、裁判員制度について学ぶ。 （必要な準備）テキスト第14章に目を通しておくこと。（30分）
第15回	まとめ ～憲法改正論議と私たち～	（内 容）昨今の憲法改正論に言及しながら、いま日本国憲法を学ぶ意味について考える。 （必要な準備）テキスト「エピローグ」。憲法改正の是非について、これまでの講義内容を振り返りながら、まとめておくこと。（1時間）

授業名	日本の文学u			開講学年	1・2・3・4回生	単位数	2単位	
英文名	Japanese Literature			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	土井 哲治			対象学生	現代家政1回生・2回生・3回生・4回生、食物栄養1回生・2回生			
授業の概要	<p>普段読まない、日本の有名な古典作品を味読することで、古い時代の日本人の姿に関する知識を増やし、優れた古人のいろいろな感性やものの考え方に接していただき、それらを通して、日常あまり考えないことを考える手懸かりともしていただきたい。吉田兼好に物申すというレポートをほぼ毎回作成する。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 『徒然草』について十分理解する。 2) 普段考えない方面のことを十分考えることができる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (文章による論理展開能力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『新版 徒然草 現代語訳付き』(角川ソフィア文庫)小川剛生・訳注(角川書店)							
参考書	使用しない。							
留意事項	毎回テキストの現代語訳を読んでくること。 レポート作成時に欠席した場合は、必ず次の授業までに提出すること。							
オフィス アワー	月曜日午後12時から15時							

授業名	日本の文学 u	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	導入	(内 容) 授業概要について (必要な準備)
第2回	三・七段	(内 容) 該当箇所精読 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。
第3回	九・十二段	(内 容) 該当箇所精読 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。
第4回	十九・二十五段	(内 容) 該当箇所精読 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。
第5回	三十・三十一段	(内 容) 該当箇所精読 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。
第6回	三十二・三十八段	(内 容) 該当箇所精読 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。
第7回	四十一・四十四段	(内 容) 該当箇所精読 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。
第8回	五十・五十四段	(内 容) 該当箇所精読 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。
第9回	五十六・五十九段	(内 容) 該当箇所精読 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。
第10回	七十一・七十三段	(内 容) 該当箇所精読 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。
第11回	七十五・八十八段	(内 容) 該当箇所精読 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。
第12回	百四・百七段	(内 容) 該当箇所精読 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。
第13回	百十二・百十七段	(内 容) 該当箇所精読 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。
第14回	百二十八・百五十五段	(内 容) 該当箇所精読 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。
第15回	まとめ	(内 容) 総括と質問 (必要な準備) 質問の用意

授業名	比較文化論 u			開講学年	1・2・3・4回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Comparative Culture			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	秋山 裕之			対象学生	現代家政1回生・2回生・3回生・4回生、食物栄養1回生・2回生			
授業の概要	文化の定義を概観したのち、いくつかのトピックを通してそれらがいかに多様であるかを示す。学生どうしでのディスカッションを通して多様性への理解を深め、自身の視点を相対化・客体化できるようになることを目指す。文化について包括的に考察し、その多様性を尊重することができるようになるための材料を提示したい。							
学習成果到達目標	1) 価値観の多様性や文化的偏見について理解を深める。 2) 文化を比較することで得られる知見にどのような意義があるかを見出すことができる。 3) 多様な物差しがあることを意識たうえで価値判断ができるようになる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テキスト	指定しない。							
参考書	世界主要国価値観データブック							
留意事項	座席は指定することがある。小グループでのディスカッションを重視する。							
オフィスアワー	週に1時間×1回設定。曜日・時間帯は学生演習室にて掲示。							

授 業 名		比較文化論 u
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション 文化とは何か	(内 容) 講義スケジュール、文化の定義 (必要な準備) シラバスを読んでくる(5分)
第2回	小さな比較の実践	(内 容) 小グループでディスカッション (必要な準備) 比較するテーマを考えておく(30分)
第3回	名付けの文化 1	(内 容) ブッシュマンの名付け、諸外国の名付け (必要な準備) 自分の名前の由来を確認しておく(30分)
第4回	名付けの文化 2	(内 容) 名付けのバリエーションと変化について (必要な準備) 子にどんな名を付けたいか考えておく(30分)
第5回	混ざり合う文化 1	(内 容) 明治期の日本文化にみられる諸外国の影響 (必要な準備) キーワード予習(30分)
第6回	混ざり合う文化 2	(内 容) 現代日本文化<から/>の影響 (必要な準備) キーワード予習(30分)
第7回	植民地主義と文化侵略	(内 容) アフリカにおける植民地主義の影響 (必要な準備) キーワード予習(30分)
第8回	文化の画一化	(内 容) アメリカニゼーション (必要な準備) キーワード予習(30分)
第9回	日本における文化交流・文化発信の現在	(内 容) 現代日本文化の海外展開 (必要な準備) キーワード予習(30分)
第10回	海外文化とステレオタイプ	(内 容) 文化的偏見 (必要な準備) キーワード予習(30分)
第11回	価値観の多国間比較 1	(内 容) 生活における重要度の多国間比較 (必要な準備) キーワード予習(30分)
第12回	価値観の多国間比較 2	(内 容) 信頼度の多国間比較 (必要な準備) キーワード予習(30分)
第13回	価値観の多国間比較 3	(内 容) 幸福度・満足度・家庭教育の多国間比較 (必要な準備) キーワード予習(30分)
第14回	比較文化を行うために	(内 容) 定量データと定性データ (必要な準備) キーワード予習(30分)
第15回	多国間比較の実践	(内 容) 定性データによる多国間比較 (必要な準備) 比較するテーマを考えてくる(30分)

授業名	社会福祉史			開講学年	4回生	単位数	2単位	
英文名	History of Social Welfare			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	流石 智子			対象学生	現代家政4回生			
授業の概要	日本では、社会福祉という概念が形成される以前に、慈善、慈恵、相互扶助、博愛等の考え方があった。こうした歴史的事実をふりかえりながら、今日の社会福祉に変遷する過程を学びの中心にする。特に女性がどのように歴史にかかわりながら差別の対象にされてきたかについても考える（たとえば、母子家庭について）。そして、現在の福祉施策の成り立ちについて考察をしていく。それは、現代の社会福祉の理念について理解を深めるために大きな力となる。また、欧米の社会福祉の歴史も学び、その変遷から日本との時代的關係を理解する。							
学習成果到達目標	1) 歴史的事実を学び、現代社会が歴史と大きく関係して築かれていることを理解することができる。 2) 社会福祉の変遷を理解し、歴史的背景からその時代に生活していた人の状況を理解することができる。 3) 歴史からその時代の女性の生き方、状況を知り、ジェンダーの視点から歴史を理解することができる。							
評価方法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (思考・判断力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テキスト	使用しない。史資料ならびにプリントを適宜コピーし配布する。							
参考書	授業で紹介する。							
留意事項	配布資料から事前にワード調べをして授業に出席してください。その時代の人々の出来事や生活実態を理解するために、日本史、欧米の歴史を事前に勉強してください。							
オフィス アワー	木曜日 12時10分～13時（研究室に在室の時は可・時間が取れない時は時間の調整をする。メールでの事前日時の約束も受け付ける。）							

授 業 名	社会福祉史	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	はじめに 歴史に関心はありますか。 明治時代の慈善救済	(内 容) 講義の進め方や評価方法 明治時代にどのような慈善救済が行われてかについて学ぶ。 (必要な準備) 岡山孤児院について調べる。(30分)
第2回	キリスト教と社会事業	(内 容) キリスト教の慈善を中心に、社会事業はどのようなものであったかを理解する。 (必要な準備) 1800年代に活躍した社会事業家を調べる。(30分)
第3回	大正デモクラシーと社会事業の成立	(内 容) 大正時代の思想と社会事業の対象者の増加について学ぶ。 (必要な準備) 米騒動について調べて、理解しておく。(30分) 方面委員制度について調べる。
第4回	戦前の社会福祉	(内 容) 救護法について理解をし、社会事業の法制化について学ぶ。 (必要な準備) 救護法とはどのような法律か調べる。(30分)
第5回	母子家庭の生活実態と母親	(内 容) 母子保護法を理解するために、母子家庭の生活実態を知る。 (必要な準備) 母子保護とは何なのかを調べる。(30分)
第6回	戦後の社会福祉(社会事業対策を中心に)	(内 容) 日本国憲法と混乱期の社会事業 (必要な準備) 日本国憲法25条について理解しておく。(30分)
第7回	戦後の社会福祉(生活保護法を中心に)	(内 容) 生活保護法の実施内容 (必要な準備) 生活保護法の旧と新との違いについて調べる。(30分)
第8回	戦後の社会福祉(朝日訴訟)	(内 容) 朝日訴訟を学び、その内容について理解を深める。 (必要な準備) 朝日訴訟について調べ、自分の考えをまとめる。(30分)
第9回	戦後の社会福祉(児童福祉等の法律を理解する)	(内 容) 児童福祉関係・障害関係の法律を学ぶ。 (必要な準備) この時の児童福祉法の特徴についてまとめる。(30分)
第10回	戦後の社会福祉(老人関係の法律を学ぶ)	(内 容) 老人福祉関係・母子福祉関係の法律を学ぶ。 (必要な準備) 老人福祉法施行の背景を調べる。(30分)
第11回	欧米の社会事業(イギリスの救貧法)	(内 容) イギリスの救貧法制定の背景を学ぶ。 (必要な準備) 救貧法について調べる。(30分)
第12回	欧米の社会福祉(イギリスのCOSについて)	(内 容) イギリスのCOS(慈善組織協会)・ベヴァリッジ報告について学ぶ。 (必要な準備) COS活動の目的について調べる。(30分)
第13回	欧米の社会福祉(アメリカと世界恐慌)	(内 容) アメリカの世界恐慌がもたらした政策を学ぶ。 (必要な準備) 世界恐慌とはどのようなものかを調べる。(30分)
第14回	欧米の社会福祉(ニューディール政策)	(内 容) アメリカのニューディール(New Deal)政策の内容を理解し、それがもたらした社会的役割を学ぶ。 (必要な準備) ニューディール政策について調べる。(30分)
第15回	社会福祉の歴史についてのまとめ	(内 容) 歴史と現代社会との関係を、振り返りをしながら学ぶ。(まとめ) (必要な準備) この授業の学びの歴史の中で一番印象に残ったことをまとめる。(30分)

授業名	ジェンダー論u			開講学年	2・3・4回生	単位数	2単位	
英文名	Gender Studies			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	斧出 節子			対象学生	現代家政2回生・3回生・4回生、食物栄養2回生			
授業の概要	<p>「女性である」「男性である」ということは、あまりに当たり前すぎて日常的に意識化されないことが多い。しかし、人は生まれた瞬間から女性または男性いずれかのカテゴリーに入れられ、文化的・社会的にふさわしい行動が期待される。本講義ではまず、どのような過程を経て、女性、男性になっていくのかを「社会化」という点からとらえ、「ジェンダー（文化的・社会的性差）」を相対化することを試みる。そして、現実の生活の中でジェンダーがどのように機能し、どのような課題を含んでいるのかを探っていく。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 現代社会におけるジェンダー差が意味するものについて意見を持つことができる。 2) 自分自身、今後開発すべき能力は何かを理解することができる。</p>							
評価方法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (積極的な授業態度)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テキスト	『女性学・男性学 ジェンダー論入門』伊藤公雄ほか(有斐閣アルマ)							
参考書	『初めて学ぶジェンダー論』伊田広行 著(大月書店)、『よくわかるジェンダー・スタディーズ』木村涼子ほか編著(ミネルヴァ書房)、『ジェンダー論をつかむ』千田有紀ほか著(有斐閣)、『未来をひらく男女共同参画 - ジェンダーの視点から』西岡正子編(ミネルヴァ書房)ほか、随時紹介する。							
留意事項	遠くの誰かの問題ではなく、自分自身の問題として考えてください。ディスカッションも行い、受講者は授業への積極的な参加が求められます。							
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。具体的な日時は研究室に張り出します。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください							

授 業 名		ジェンダー論u	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	セックスとジェンダーの違い	(内 容)	概念説明 (必要な準備) シラバスを読んでおく。
第2回	「らしさ」とは何か	(内 容)	男らしさ、女らしさについて考える。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく。(30分)
第3回	男女二分法について	(内 容)	二つに分けることはどういうことかを学ぶ。 (必要な準備) 前回の講義について復習すること。(30分)
第4回	性における多様性：性の複数の次元	(内 容)	性の複数の次元について学ぶ。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく。(30分)
第5回	性における多様性：性の少数派	(内 容)	性の少数派について理解する。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく。(30分)
第6回	文化とジェンダー	(内 容)	文化によるジェンダーの違いを学ぶ。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく。(30分)
第7回	幼児期の性の社会化	(内 容)	親と子どもの相互作用について学ぶ。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく。(30分)
第8回	シンデレラとジェンダー	(内 容)	映像を分析する。 (必要な準備) グリム童話について調べておくこと。(30分)
第9回	メディアがジェンダーに与える影響	(内 容)	メディアが与える影響について考える。 (必要な準備) 課題レポートを作成しておくこと。(30分)
第10回	教育とジェンダー：隠れたカリキュラム	(内 容)	隠れたカリキュラムについて理解する。 (必要な準備) 前回の授業内容をまとめておくこと。(30分)
第11回	教育とジェンダー：隠れたカリキュラムの実態	(内 容)	自分の経験をもとに、隠れたカリキュラムの実態について考える。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく。(30分)
第12回	デートDVとジェンダー	(内 容)	デートDVの実態とメカニズムを学ぶ。 (必要な準備) 前回の授業内容をまとめておくこと。(30分)
第13回	男女雇用機会均等法	(内 容)	男女雇用機会均等法の成立過程とその内容について学ぶ。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく。(30分)
第14回	男女共同参画社会をめざして	(内 容)	各領域でのジェンダー平等の実態について学ぶ。 (必要な準備) 前回の授業内容をまとめておくこと。(30分)
第15回	まとめ	(内 容)	これまでのまとめと今後の課題を学ぶ。 (必要な準備) 疑問点をまとめておくこと。(30分)

授業名	世界の経済			開講学年	1・2・3・4回生	単位数	2単位	
英文名	World Economy			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	足立 正樹			対象学生	現代家政1回生・2回生・3回生・4回生、食物栄養1回生、2回生			
授業の概要	<p>私たちはさまざまな経済現象のなかで暮らしている。経済現象の中には自分の生活と無関係と思われるものもあるが、国境を越えての経済活動が急速に広がっている中では、思わざるところで関係している場合も多い。たとえば通貨危機、IT不況、同時多発テロなどは私たちの日常や経済現象に大きな影響を与えている。経済とは何かを理解するために、現実に行っている経済現象、諸問題を検討していく。授業は講義形式で行う。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 世界経済の歴史と現状についての基本的知識を習得する。 2) 自分のくらしと世界経済の結びつきを理解する。</p>							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)
テキスト	使用しない。							
参考書	使用しない。							
留意事項								
オフィス アワー	担当授業の前後に行う。							

授 業 名		世界の経済	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	はじめに	(内 容) 講義の基本方針 (必要な準備) シラバスを読んでおく。	
第2回	日常生活における世界経済	(内 容) 身の回りの外国製品、円相場、海外旅行 (必要な準備) 身の回りの外国製品を調べてみる。	
第3回	日常生活における世界経済	(内 容) 日本の経済構造と世界経済 (必要な準備) 日本経済と世界経済の違いについて知っていることをまとめておく。	
第4回	世界経済の成立	(内 容) 新大陸の発見と世界経済 (必要な準備) 大航海の時代について調べる。	
第5回	近代社会の原理と国民国家	(内 容) 近代社会の精神的特徴と国家体制 (必要な準備) 近代の特徴を調べておく。	
第6回	自由貿易の理論的基礎	(内 容) 自由主義思想と経済学の誕生 (必要な準備) 自由貿易とは何か、調べておく。	
第7回	自由貿易の理論的基礎	(内 容) 貿易の利益の基礎理論 (必要な準備) 比較優位を調べておく。	
第8回	日本と世界経済	(内 容) 古代と中世における外国貿易 (必要な準備) 古代～中世の貿易について調べておく。	
第9回	日本と世界経済	(内 容) 近世における外国貿易 (必要な準備) 近世の貿易について調べておく。	
第10回	世界経済の発展	(内 容) 植民地獲得競争と日本の開国 (必要な準備) 非ヨーロッパの植民地化について調べておく。	
第11回	世界経済の発展	(内 容) 世界大恐慌と資本主義の崩壊 (必要な準備) 世界大恐慌について調べておく。	
第12回	破局からの復興	(内 容) 国内体制の整備、福祉国家体制 (必要な準備) 経済再建の原則を理解しておく。	
第13回	破局からの復興	(内 容) 国際体制、自由貿易体制の確立 (必要な準備) IMF・ブレトンウッズについて調べておく。	
第14回	ソ連体制の崩壊とグローバル化	(内 容) 世界単一市場の成立 (必要な準備) 価格破壊の実態について調べておく。	
第15回	世界経済の展望	(内 容) 続発する通貨危機と新たな秩序の試み (必要な準備) 過去に世帯で起こった通貨危機について調べる。	

授業名	国際理解			開講学年	1・2・3・4回生	単位数	2単位	
英文名	International Understanding			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	秋山 裕之			対象学生	現代家政1回生・2回生・3回生・4回生、食物栄養1回生、2回生			
授業の概要	グローバル化の進む現在、世界全体が一つのシステムに統合されつつあるように見える局面がある。しかし、今なお国家単位、あるいは近隣国家群（地域）において、それぞれの風土、歴史、民族、宗教、文化などに由来する独自性が息づいている。本講義ではそれらを地域別に概観し、世界の多様性に関する知識を得て、諸外国に対する理解を深めることを目的とする。							
学習成果到達目標	1) 世界の諸国・諸地域の現状について歴史をふまえて理解する。 2) 様々な事柄について、国際的な視野のもとで考えることができるようになる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テキスト	使用しない。							
参考書	適宜紹介する。							
留意事項	諸外国・地域について知的好奇心がある人にすすめます。毎回の予習と最後のグループワークに積極的に取り組むことが必要です。							
オフィスアワー	週に1時間×1回設定。曜日・時間帯は学生演習室にて掲示。							

授 業 名		国際理解
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	イントロダクション：国家と地域	(内 容) 「国家」と複数の国家を含む「地域」について (必要な準備) シラバスを読んでおくこと(10分)
第2回	東アジア	(内 容) 東アジア地域の歴史と国家間関係 (必要な準備) キーワード予習(30分)
第3回	東南アジア	(内 容) 東南アジア地域の歴史と地域性 (必要な準備) キーワード予習(30分)
第4回	オセアニア	(内 容) オセアニア地域の歴史と地域性 (必要な準備) キーワード予習(30分)
第5回	インド	(内 容) インドのなりたちと特徴 (必要な準備) キーワード予習(30分)
第6回	西南アジア	(内 容) 西南アジア地域の特徴と西洋社会との関係 (必要な準備) キーワード予習(30分)
第7回	アフリカ 1	(内 容) 植民地以前、植民地時代、独立後について (必要な準備) キーワード予習(30分)
第8回	アフリカ 2	(内 容) 現代のアフリカの多様性 (必要な準備) キーワード予習(30分)
第9回	中南米 1	(内 容) 植民地以前、植民地時代、独立後について (必要な準備) キーワード予習(30分)
第10回	中南米 2	(内 容) 現代の中南米地域の国家と地域性 (必要な準備) キーワード予習(30分)
第11回	北米	(内 容) 北米地域のなりたちと特徴 (必要な準備) キーワード予習(30分)
第12回	ヨーロッパ 1	(内 容) ヨーロッパの歴史 (必要な準備) キーワード予習(30分)
第13回	ヨーロッパ 2	(内 容) 現代のヨーロッパ (必要な準備) キーワード予習(30分)
第14回	グループワーク	(内 容) 独自のテーマで特定の国家・地域について調べる (必要な準備) 調べたいテーマと地域について考えてくる(30分)
第15回	グループワーク発表会	(内 容) グループ研究の発表 (必要な準備) 発表準備(2時間)

授業名	産官学連携実践 u a ・ u b			開講学年	1・2・3・4回生	単位数	2単位	
英文名	Practice of society cooperation			開講時期	春・秋学期	必修・選択	選択	
担当者	秋山 裕之			対象学生	現代家政1回生・2回生・3回生・4回生、食物栄養1回生、2回生			
授業の概要	<p>大学生として学ぶことと実社会との結びつきを低学年のうちから実感し、学びを深めると共に大学生としてのキャリア形成のスタートを図る。地域の企業や学校への関心を涵養し、進路選択の選択肢としての視野を広げることを意識する。具体的には事前学習を行い、実践体験先である企業や学校の現場に入り、現場で「仕事とは何か」「働くこととは何か」を考え、仕事をする上での必要な能力を修得することをねらいとする。そして実践体験からの気づきと課題などを整理し、今後の目標を明らかにすることを目指す。</p> <p>講義と共にグループワークやプレゼンテーションを行う。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 実社会に触れることにより、学習意欲の向上をはかることができる。</p> <p>2) 社会でのコミュニケーション能力を高めることができる。</p> <p>3) 社会人に必要な基礎的な能力を身に付けることができる。</p> <p>4) 自分の将来を明確にすることができる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (チームワーク力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)		
テキスト	なし							
参考書	受講生は自らも新聞などを読み、調べていく過程でテーマを見つけること。							
留意事項	本授業は、学びと実社会のつながりを認識しながら、学びを深めるという目的から、意欲のある学生の受講を求める。大学での事前授業・事後授業に加えて、スクールボランティアやインターンシップに主体的に参加することが単位の条件となる。							
オフィスアワー	週に1時間×1回設定。曜日・時間帯は学生演習室にて掲示。							

授 業 名		産官学連携実践 u a ・ u b	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業の計画・内容・注意事項等。 (必要な準備) シラバスを事前に読んでおく。(10分)	
第2回	大学と高校の学びの相違点	(内 容) 大学とは何か、高校までとの違いを考える。 (必要な準備) 自分自身の考えをまとめておく。(30分)	
第3回	産官学連携実践の意義と目的	(内 容) 大学と社会の違い、つながりを考える。産官学連携実践の意義や現状等について学ぶ。 (必要な準備) 前講の復習(30分)	
第4回	実践体験先の探し方 実践体験に向けた目的の設定	(内 容) 実践体験先の探し方、目的・実施形態・現状等について学び、実践の目的・目標について考える。 (必要な準備) 前講の復習(30分)	
第5回	ビジネスマナーの基本：挨拶と訪問、心構え	(内 容) 事前の連絡・事前の訪問・挨拶・打ち合わせ等の心構えを学び、自己紹介・挨拶の仕方等の演習を行う。 (必要な準備) 前講の復習(30分)	
第6回	企業・学校の現場を知る	(内 容) 現場での実践 (必要な準備) 前講の復習(30分)	
第7回	企業・学校の現場を知る	(内 容) 現場での実践 (必要な準備) 常にメモをとる。(随時)	
第8回	企業・学校の現場を知る	(内 容) 現場での実践 (必要な準備) 常にメモをとる。(随時)	
第9回	企業・学校の現場を知る	(内 容) 現場での実践。 (必要な準備) 常にメモをとる。(随時)	
第10回	企業・学校の現場を知る	(内 容) 現場での実践。 (必要な準備) 常にメモをとる。(随時)	
第11回	企業・学校の現場を知る	(内 容) 現場での実践 (必要な準備) 常にメモをとる。(随時)	
第12回	企業・学校の現場を知る	(内 容) 現場での実践 (必要な準備) 常にメモをとる。(随時)	
第13回	実践体験の成果の振り返り	(内 容) 実践体験の成果を振り返り、経験の共有、成長点の認識などをグループで話し合う。 (必要な準備) ノート・メモの整理(1時間)	
第14回	実践体験報告をまとめる	(内 容) 実践体験からの気づきと課題などを整理し、今後の目標を明確にするとともに、実践体験報告書をまとめ。 (必要な準備) レポートを書く準備をする(1時間)	
第15回	実践体験の報告会での発表	(内 容) 最終のまとめとして、実践体験報告会を行う。 (必要な準備) 発表の事前準備とリハーサルをしておく。(1時間)	

授業名	産官学連携実践 u a ・ u b			開講学年	2・3・4回生	単位数	2単位	
英文名	Practice of society cooperation			開講時期	春・秋学期	必修・選択	選択	
担当者	湯浅 俊郎			対象学生	現代家政2回生・3回生・4回生、食物栄養2回生			
授業の概要	<p>本授業では、自らキャリアを形成したいという意欲を高めるために、他者とのコミュニケーションを通じて多様な価値観を取り入れ、「社会人」として必要な資質・技能を習得していくことを目的とする。スクールボランティアやコンソーシアム京都が行うインターンシップに参加することを通して、社会で生きていくために必要な力を身に付けていく。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 自主的・主体的に行動する力を習得する。 2) 課題を発見し、解決に向け提案する力を習得する。 3) 分かりやすく書く・話す自己表現力を身に付ける。 4) 人と力を合わせて取り組むことのできるチームワーク力を身に付ける。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力) ()
テキスト	講義資料配布							
参考書	授業中に指示する。							
留意事項	学生のみなさんの自主的活動を理論と実践の両面から支援するための講座です。スクールボランティアやコンソーシアム京都が行うインターンシップなどへの積極的な参加を求めます。							
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。							

授 業 名		産官学連携実践 u a ・ u b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (必要な準備)	
第2回	キャリアプランニング	(内 容) キャリアプランニングと進路決定に必要な要素とプロセス理解を深める。 (必要な準備) キャリアプランニングについて調べておくこと(60分)。	
第3回	自分の動機づけ	(内 容) 自分を動機づけてきたものは何か、言語表現で明らかにする。 (必要な準備) キャリアプランニングに必要な動機づけについて考えまとめておくこと(60分)。	
第4回	働く意味を考える	(内 容) 働く意味を考え、自分が形成したいキャリアの形を見出す。 (必要な準備) 働くことに対して自分もつイメージをまとめておく(60分)。	
第5回	産官学連携とは	(内 容) 産官学連携について捉える。 (必要な準備) 全講までの復習をしておく(60分)。	
第6回	企業・学校の現場を知る	(内 容) 現場での実践。 (必要な準備) 実習の事前準備をおこなう(30分)。	
第7回	企業・学校の現場を知る	(内 容) 現場での実践。 (必要な準備) 実習の事前準備をおこなう(30分)。	
第8回	企業・学校の現場を知る	(内 容) 現場での実践。 (必要な準備) 実習の事前準備をおこなう(30分)。	
第9回	企業・学校の現場を知る	(内 容) 現場での実践。 (必要な準備) 実習の事前準備をおこなう(30分)。	
第10回	企業・学校の現場を知る	(内 容) 現場での実践。 (必要な準備) 実習の事前準備をおこなう(30分)。	
第11回	企業・学校の現場を知る	(内 容) 現場での実践。 (必要な準備) 実習の事前準備をおこなう(30分)。	
第12回	企業・学校の現場を知る	(内 容) 現場での実践。 (必要な準備) 実習の事前準備をおこなう(30分)。	
第13回	資料をまとめる	(内 容) 収集した資料を整理する。 (必要な準備) 実習で得た資料をまとめる(60分)。	
第14回	資料をまとめる	(内 容) レポートを書く準備をする。 (必要な準備) 実習で得た資料をまとめる(60分)。	
第15回	レポートにまとめる	(内 容) レポートにまとめる。 (必要な準備) 前講までのまとめをする(60分)。	

授業名	和食学			開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Japanese Food			開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	堀越 昌子			対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	人間はいかにして食物を獲得し、安全でおいしい食物を摂取するかについての工夫と努力を重ね、食文化を発展させてきた。日本における伝統的な和食は優れた健康食であるということが実証されつつある。ここでは、現代の私たちの食生活、食嗜好がどのように形成されてきたのかを、生活を営む人間側の観点に立って検討する。また、京都という地域に注目した地域と食およびその暮らしについて、歴史的変遷や社会的背景をもとに理解し、学生自ら人間は何を食べてきたのか、何を食べているのか、何を食べたらよいのかを考え、これからの食生活のあり方を見直し、健康な食生活の維持・増進に役立てる能力を養うことを目指す。						
学習成果到達目標	1) 和食の特徴を食材、調理法、食べ方などの面から捉えることができる。 2) 和食がユネスコ世界遺産に登録された要因を探ることができる。 3) 世界の食文化と比較しながら、和食の継承について考えることができる。						
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)		
テキスト	資料を配布する。						
参考書							
留意事項							
オフィスアワー	毎週1回(休業期間を除く)オフィスアワーを設けます。						

授 業 名		和食学	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	和食の特徴	(内 容) ユネスコの世界遺産に登録された要因を探る。 (必要な準備) 世界の食文化と和食を比較しておく。	
第2回	世界の食文化と和食	(内 容) 世界の食文化と和食 (必要な準備) 資料を読んでおく。	
第3回	気候風土と主食文化	(内 容) 気候風土と主食文化の関連と食文化圏の形成をみていく。 (必要な準備) 資料を読んでおく。	
第4回	日本の風土と和食の形成	(内 容) アジアモンスーン圏における日本の風土と和食の形成 (必要な準備) 資料を読んでおく。	
第5回	縄文時代の採集生活と食	(内 容) 縄文時代の採集生活はどのような食事構成であったかを探る (必要な準備) 資料を読んでおく。	
第6回	弥生時代の稲作と「米と魚」の食の形成	(内 容) 弥生時代の稲作が「米と魚」を柱とする和食の成立要因となる。 (必要な準備) 資料を読んでおく。	
第7回	奈良時代律令国家の成立と食	(内 容) 奈良時代律令国家の成立と獣肉食の後退を探る。 (必要な準備) 資料を読んでおく。	
第8回	平安時代の公家文化と宮廷料理	(内 容) 平安時代の公家文化と都の宮廷料理の特徴を探る。 (必要な準備) 資料を読んでおく。	
第9回	鎌倉・室町時代の武家社会と本膳料理、茶の文化	(内 容) 鎌倉・室町時代の武家社会と本膳料理、茶の文化の発展を捉える。 (必要な準備) 担当分野の食の特徴を調べて、発表できるように準備しておく。	
第10回	戦国時代と江戸時代、町民の食の発展	(内 容) 戦国時代と江戸時代、町民の食がどのように発展したかを捉える。 (必要な準備) 担当分野の食の特徴を調べて、発表できるように準備しておく。	
第11回	明治・大正・昭和・平成の食	(内 容) 明治・大正・昭和・平成における食の変遷を一時産業の変遷とともに捉えていく。 (必要な準備) 担当分野の食の特徴を調べて、発表できるように準備しておく。	
第12回	日本各地の郷土食(1) 西日本と東日本	(内 容) 日本各地の郷土食(1) 西日本と東日本の食生活の差について考える。 (必要な準備) 担当分野の食の特徴を調べて、発表できるように準備しておく。	
第13回	日本各地の郷土食(2) 山村・農村・漁村の食	(内 容) 日本各地の郷土食(2) 山村・農村・漁村の食生活の違いを捉える。 (必要な準備) 担当分野の食の特徴を調べて、発表できるように準備しておく。	
第14回	和食のスタイルと食構成	(内 容) 和食のスタイル、食具、食構成の特徴を捉えていく。 (必要な準備) 担当分野の食の特徴を調べて、発表できるように準備しておく。	
第15回	和食文化の継承の課題	(内 容) 和食文化を継承していくための課題を考え、まとめていく。 (必要な準備) 和食文化のまとめをしておく。	

授業名	ライフステージ栄養学			開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Nutrition of Life			開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	平 正人			対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	人間の一生を乳幼児期・児童期・成年期・高齢者期に区分し、妊娠や発育・加齢による人体の構造や機能などの生理的変化を学習し、各ライフステージでの栄養の特徴とそれらに合わせた栄養アセスメントの原理について具体的に理解する。また、各ライフステージと関連の深い疾病の病態と概要についても解説する。						
学習成果到達目標	人生における各時期や様々な生活環境によって、個人の食生活に関する留意点は異なる。各人がそれぞれの生活の質を向上させ、心身ともに良好な健康状態を保つため、個人の身体状況や栄養状態に応じた栄養管理が重要となる。本講義では各ライフステージで直面する栄養および食事に関する諸問題について理解する。栄養状態の評価・判定に必要な基礎知識を学び、特徴に適した栄養補給について学習する。						
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)		
テキスト	サクセス管理栄養士講座 応用栄養学 ライフステージ別 全国栄養士養成施設協会監修(第一出版)						
参考書	適宜、参考資料や文献を用いる。						
留意事項	与えられた宿題はもとより、十分な予習・復習をして講義に出席すること。						
オフィス アワー	研究室に日時を添付するので確認してください。						

授 業 名		ライフステージ栄養学	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	1、オリエンテーション 栄養ケア・マネジメントと食事摂取基準の理解	(内 容) 1、授業の進め方と栄養ケア・マネジメントの定義、食事摂取基準の基礎について学ぶ (必要な準備) シラバスと教科書を予習しておくこと。(30分)	
第2回	2、成長・発達・加齢の概念と栄養	(内 容) 2、誕生から成長過程における人体の発達や加齢の概念と、人の成長・発達・加齢における影響と栄養について学ぶ (必要な準備) 教科書を予習しておくこと。(30分)	
第3回	3、妊娠期の栄養	(内 容) 3、妊娠期における母体・胎児の栄養アセスメントと栄養ケア (必要な準備) 教科書を予習しておくこと。(30分)	
第4回	4、授乳期の栄養	(内 容) 4、授乳期における栄養アセスメントと栄養ケア (必要な準備) 教科書を予習しておくこと。(30分)	
第5回	5、新生児期の栄養	(内 容) 5、新生児期における栄養アセスメントと栄養ケア (必要な準備) 教科書を予習しておくこと。(30分)	
第6回	6、乳児期・離乳期の栄養	(内 容) 6、乳児期及び離乳期における栄養アセスメントと栄養ケア (必要な準備) 教科書を予習しておくこと。(30分)	
第7回	7、幼児期の栄養	(内 容) 7、幼児期における栄養アセスメントと栄養ケア (必要な準備) 教科書を予習しておくこと。(30分)	
第8回	8、学童期の栄養	(内 容) 8、学童期における栄養アセスメントと栄養ケア (必要な準備) 教科書を予習しておくこと。(30分)	
第9回	9、思春期の栄養	(内 容) 9、思春期における栄養アセスメントと栄養ケア (必要な準備) 教科書を予習しておくこと。(30分)	
第10回	10、成人期の栄養	(内 容) 10、成人期における栄養アセスメントと栄養ケア (必要な準備) 教科書を予習しておくこと。(30分)	
第11回	11、更年期の栄養	(内 容) 11、更年期における栄養アセスメントと栄養ケア (必要な準備) 教科書を予習しておくこと。(30分)	
第12回	12、高齢期の栄養	(内 容) 12、高齢期における栄養アセスメントと栄養ケア (必要な準備) 教科書を予習しておくこと。(30分)	
第13回	13、運動・スポーツと栄養	(内 容) 13、運動・スポーツ時における生理的特徴と栄養ケア (必要な準備) 教科書を予習しておくこと。(30分)	
第14回	14、環境と栄養	(内 容) 14、ストレス時における栄養ケア、及び特殊環境と栄養ケア (必要な準備) 教科書を予習しておくこと。(30分)	
第15回	15、まとめと評価(到達度の確認)	(内 容) 15、まとめと総合評価 (必要な準備) 全体の復習をしておくこと。(1時間)	

授業名	TOEIC			開講学年	2・3回生	単位数	1単位	
英文名	TOEIC			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	松尾 章子			対象学生	現代家政2回生・3回生、食物栄養2回生			
授業の概要	TOEICやTOEIC Bridgeでの得点アップを目指し、練習問題を多く解く。TOEIC、TOEIC Bridge受験時の解答テクニックを磨き、勉強方法を知る。英語に関する弱点を見つけ克服できるよう取り組む。TOEIC400点又はTOEIC Bridge130点取得を目指す。							
学習成果到達目標	1) TOEICテスト形式に慣れ、試験受験時には問題に集中することができる。 2) Part 2とPart 5の問題は他のPartよりも容易に解くことができる。 3) TOEICに関連する単語・表現を、受講開始時より150個多く知っている。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	妻鳥千鶴子&田平真澄著 『はじめてのTOEIC受験徹底対策 改訂版』 センゲージラーニング株式会社 2016年							
参考書	自分のレベルに合ったテキスト/問題集を使用して、語彙力やスキルアップに取り組むことを強く望みます。							
留意事項	学期後半にTOEIC又はTOEIC Bridgeテストの団体受験を実施します。							
オフィス アワー	研究室前に日時を掲示しますので、確認してください。							

授 業 名		TOEIC
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	Introduction, Pre-test	(内 容) 到達目標の確認、進め方の説明、学習前テスト (必要な準備) 本授業のシラバスを読む
第2回	Quiz 1 頻出語句リスト「A」テスト Unit 1 Shopping	(内 容) 小テスト1、Unit 1の内容確認、練習問題 (必要な準備) 頻出語句リスト「A」の単語練習、Unit 1の問題を解き答え合わせをして復習をする、授業中に確認したい箇所に印をつける
第3回	Quiz 2 頻出語句リスト「B-C」テスト Unit 2 Daily Life	(内 容) 小テスト2、Unit 2の内容確認、練習問題 (必要な準備) 頻出語句リスト「B-C」の単語練習、Unit 2の問題を解き答え合わせをして復習をする、授業中に確認したい箇所に印をつける
第4回	Quiz 3 頻出語句リスト「D-E」テスト Unit 3 Transportation	(内 容) 小テスト3、Unit 3の内容確認、練習問題 (必要な準備) 頻出語句リスト「D-E」の単語練習、Unit 3の問題を解き答え合わせをして復習をする、授業中に確認したい箇所に印をつける
第5回	Quiz 4 頻出語句リスト「F-H」テスト Unit 4 Jobs	(内 容) 小テスト4、Unit 4の内容確認、練習問題 (必要な準備) 頻出語句リスト「F-H」の単語練習、Unit 4の問題を解き答え合わせをして復習をする、授業中に確認したい箇所に印をつける
第6回	Quiz 5 頻出語句リスト「I-K」テスト Unit 5 Meals	(内 容) 小テスト5、Unit 5の内容確認、練習問題 (必要な準備) 頻出語句リスト「I-K」の単語練習、Unit 5の問題を解き答え合わせをして復習をする、授業中に確認したい箇所に印をつける
第7回	Quiz 6 頻出語句リスト「L-O」テスト Unit 6 Communication	(内 容) 小テスト6、Unit 6の内容確認、練習問題 (必要な準備) 頻出語句リスト「L-O」の単語練習、Unit 6の問題を解き答え合わせをして復習をする、授業中に確認したい箇所に印をつける
第8回	Quiz 7 頻出語句リスト「P-Q」テスト Unit 7 Fun	(内 容) 小テスト7、Unit 7の内容確認、練習問題 (必要な準備) 頻出語句リスト「P-Q」の単語練習、Unit 7の問題を解き答え合わせをして復習をする、授業中に確認したい箇所に印をつける
第9回	Quiz 8 頻出語句リスト「R」テスト Unit 8 Office Work	(内 容) 小テスト8、Unit 8の内容確認、練習問題 (必要な準備) 頻出語句リスト「R」の単語練習、Unit 8の問題を解き答え合わせをして復習をする、授業中に確認したい箇所に印をつける
第10回	Quiz 9 頻出語句リスト「S」テスト Unit 9 Meeting	(内 容) 小テスト9、Unit 9の内容確認、練習問題 (必要な準備) 頻出語句リスト「S」の単語練習、Unit 9の問題を解き答え合わせをして復習をする、授業中に確認したい箇所に印をつける
第11回	Quiz 10 頻出語句リスト「T-W」テスト Unit 10 Travel	(内 容) 小テスト10、Unit 10の内容確認、練習問題 (必要な準備) 頻出語句リスト「T-W」の単語練習、Unit 10の問題を解き答え合わせをして復習をする、授業中に確認したい箇所に印をつける
第12回	Unit 11 Finance	(内 容) Unit 11の内容確認、練習問題 (必要な準備) Unit 11の問題を解き答え合わせをして復習をする、授業中に確認したい箇所に印をつける
第13回	Unit 12 Business	(内 容) Unit 12の内容確認、練習問題 (必要な準備) Unit 12の問題を解き答え合わせをして復習をする、授業中に確認したい箇所に印をつける
第14回	Post-test	(内 容) 学習後テスト (必要な準備) Units 1-12の復習、頻出語句リストの復習
第15回	Review	(内 容) 復習 (必要な準備) Units 1-12とPre- & Post-testの復習、頻出語句リストの復習

授業名	TOEIC			開講学年	2・3回生	単位数	1単位	
英文名	TOEIC			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	松尾 章子			対象学生	現代家政2回生・3回生、食物栄養2回生			
授業の概要	TOEICやTOEIC Bridgeでの得点アップを目指し、練習問題を多く解く。TOEIC、TOEIC Bridge受験時の解答テクニックを磨き、勉強方法を知る。英語に関する弱点を見つけ克服できるよう取り組む。TOEIC450点又はTOEIC Bridge150点取得を目指す。							
学習成果到達目標	1) TOEICテスト形式に慣れ、試験受験時には問題に集中することができる。 2) Parts 1, 2, 5, 6の問題は他のPartよりも容易に解くことができる。 3) TOEICに関連する単語・表現を、受講開始時より150個多く知っている。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	横山綾子 & Tony Cook 著 『TOEIC TEST解答力アップ徹底トレーニング 改訂版』セーンゲージラーニング株式会社 2016年							
参考書	自分のレベルに合ったテキスト/問題集を使用して、語彙力やスキルアップに取り組むことを強く望みます。							
留意事項	学期後半にTOEIC又はTOEIC Bridgeテストの団体受験を実施します。							
オフィスアワー	研究室前に日時を掲示しますので、確認してください。							

授 業 名		TOEIC
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	Introduction, Pre-test	(内 容) 到達目標の確認、進め方の説明、学習前テスト (必要な準備) 本授業のシラバスを読む
第2回	Quiz 1 頻出語句リスト「A」テスト Unit 1 テスト形式を知る	(内 容) 小テスト1、Unit 1の内容確認、練習問題 (必要な準備) 頻出語句リスト「A」の単語練習、Unit 1の問題を解き答え合わせをして復習する、授業中に確認したい箇所に印をつける
第3回	Quiz 2 頻出語句リスト「B & D」テスト Unit 2 基本戦略 人 物 風景 のチェックポイント	(内 容) 小テスト2、Unit 2の内容確認、練習問題 (必要な準備) 頻出語句リスト「B & D」の単語練習、Unit 2の問題を解き答え合わせをして復習する、授業中に確認したい箇所に印をつける
第4回	Quiz 3 頻出語句リスト「C」テスト Unit 3 基本戦略 聞いてわかる生活語彙を増やす!	(内 容) 小テスト3、Unit 3の内容確認、練習問題 (必要な準備) 頻出語句リスト「C」の単語練習、Unit 3の問題を解き答え合わせをして復習する、授業中に確認したい箇所に印をつける
第5回	Quiz 4 頻出語句リスト「E-F」テスト Unit 4 英文の基本構造を見抜く	(内 容) 小テスト4、Unit 4の内容確認、練習問題 (必要な準備) 頻出語句リスト「E-F」の単語練習、Unit 4の問題を解き答え合わせをして復習する、授業中に確認したい箇所に印をつける
第6回	Quiz 5 頻出語句リスト「G-I」テスト Unit 5 解答根拠の登場順	(内 容) 小テスト5、Unit 5の内容確認、練習問題 (必要な準備) 頻出語句リスト「G-I」の単語練習、Unit 5の問題を解き答え合わせをして復習する、授業中に確認したい箇所に印をつける
第7回	Quiz 6 頻出語句リスト「K-N」テスト Unit 6 正解の言い換えパターンを知る	(内 容) 小テスト6、Unit 6の内容確認、練習問題 (必要な準備) 頻出語句リスト「K-N」の単語練習、Unit 6の問題を解き答え合わせをして復習する、授業中に確認したい箇所に印をつける
第8回	Quiz 7 頻出語句リスト「O-P」テスト Unit 7 機能疑問文を聞き取る	(内 容) 小テスト7、Unit 7の内容確認、練習問題 (必要な準備) 頻出語句リスト「O-P」の単語練習、Unit 7の問題を解き答え合わせをして復習する、授業中に確認したい箇所に印をつける
第9回	Quiz 8 頻出語句リスト「Q-R」テスト Unit 8 動詞の時制を見極める	(内 容) 小テスト8、Unit 8の内容確認、練習問題 (必要な準備) 頻出語句リスト「Q-R」の単語練習、Unit 8の問題を解き答え合わせをして復習する、授業中に確認したい箇所に印をつける
第10回	Quiz 9 頻出語句リスト「S」テスト Unit 9 接続詞 VS. 前置詞	(内 容) 小テスト9、Unit 9の内容確認、練習問題 (必要な準備) 頻出語句リスト「S」の単語練習、Unit 9の問題を解き答え合わせをして復習する、授業中に確認したい箇所に印をつける
第11回	Quiz 10 頻出語句リスト「T-Y」テスト Unit 10 複数パッセージの攻略	(内 容) 小テスト10、Unit 10の内容確認、練習問題 (必要な準備) 頻出語句リスト「T-Y」の単語練習、Unit 10の問題を解き答え合わせをして復習する、授業中に確認したい箇所に印をつける
第12回	Unit 11 接続副詞に強くなる	(内 容) Unit 11の内容確認、練習問題 (必要な準備) Unit 11の問題を解き答え合わせをして復習する、授業中に確認したい箇所に印をつける
第13回	Unit 12 NOT型設問のコツ	(内 容) Unit 12の内容確認、練習問題 (必要な準備) Unit 12の問題を解き答え合わせをして復習する、授業中に確認したい箇所に印をつける
第14回	Post-test	(内 容) 学習後テスト (必要な準備) Units 1-12の復習、頻出語句リストの復習
第15回	Review	(内 容) 復習 (必要な準備) Units 1-12とPre- & Post-testの復習、頻出語句リストの復習

授業名	中国語 u			開講学年	2・3・4回生	単位数	1単位	
英文名	Chinese			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	中尾 弥継			対象学生	現代家政2回生・3回生・4回生、食物栄養2回生			
授業の概要	本授業では中国語を耳と口で学ぶことに重点を置き、中国人と初歩的なコミュニケーションがとれるようになることを目指します。授業は演習形式で行います。							
学習成果到達目標	1) 正確な中国語の発音ができる。 2) 基本的な単語や文法が理解できる。 3) 自力で簡単な文章を作ったり、相手と簡単な会話を行ったりできる。							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 ()	コミュニケーション能力 ()	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	『初級テキスト カンファー中国語』(坂井有・中尾弥継・楊韜 著、ブックウェイ)							
参考書	『プログレッシブ中国語辞典 第2版』(小学館)							
留意事項	前の方の席に座ること。発音する時は大きな声で。予習・復習をしっかりとやること。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施します。							

授 業 名	中国語 u	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	科目ガイダンス 「発音」(声調、単母音)	(内 容) 講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (必要な準備) テキストを事前に一覧しておく。
第2回	「発音」(子音、複母音)	(内 容) 中国語の基本的な発音を習得する。 (必要な準備) 「第1回」の復習。
第3回	「発音」(声調変化、よく使う表現 など)	(内 容) 中国語の基本的な発音を習得する。 (必要な準備) 「第2回」の復習。
第4回	「第一課」(人称代名詞、疑問文 など)	(内 容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (必要な準備) 「第3回」の復習。
第5回	「第二課」(いろいろな動詞、語気助詞“?” “?” “?” など)	(内 容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (必要な準備) 「第4回」の復習。
第6回	復習 「第一課」「第二課」	(内 容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (必要な準備) 「第一課」「第二課」の復習。
第7回	「第三課」(形容詞述語文、疑問詞“何?” “何?” “?” など)	(内 容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (必要な準備) 「第6回」の復習。
第8回	「第四課」(数詞、量詞 など)	(内 容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (必要な準備) 「第7回」の復習。
第9回	復習 「第三課」「第四課」	(内 容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (必要な準備) 「第三課」「第四課」の復習。
第10回	「第五課」(方位詞、存在を表す“在” など)	(内 容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (必要な準備) 「第9回」の復習。
第11回	「第六課」(時間の言い方、連動文 など)	(内 容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (必要な準備) 「第10回」の復習。
第12回	復習 「第五課」「第六課」	(内 容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (必要な準備) 「第五課」「第六課」の復習。
第13回	「第七課」(完了、変化“了” など)	(内 容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (必要な準備) 「第12回」の復習。
第14回	総復習	(内 容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (必要な準備) 「発音」から「第3課」の復習。
第15回	総復習	(内 容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (必要な準備) 「第4課」から「第7課」の復習。

授業名	中国語 u			開講学年	2・3・4回生	単位数	1単位	
英文名	Chinese			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	中尾 弥継			対象学生	現代家政2回生・3回生・4回生、食物栄養2回生			
授業の概要	本授業は中国語を耳と口で学ぶことに重点を置き、やや複雑なコミュニケーションがとれるようになることを目指します。授業は演習形式で行います。							
学習成果到達目標	1) より正確な中国語の発音ができる。 2) より多くの単語や、より高度な文法が理解できる。 3) 自力で複雑な文章を作ったり、相手とより具体性のある会話を行ったりできる。							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『初級テキスト カンファー中国語』(坂井有・中尾弥継・楊韜 著、ブックウェイ) 中国語 で購入したテキストを継続して使用							
参考書	『プログレッシブ中国語辞典 第2版』(小学館)							
留意事項	前の方の席に座ること。発音する時は大きな声で。予習・復習をしっかりとやること。							
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。							

授 業 名		中国語 u
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	科目ガイダンス 中国語 の復習	(内 容) 講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (必要な準備) 中国語 で学習した部分を復習しておく。
第2回	「第八課」(助動詞、“会”“能”“可以” など)	(内 容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (必要な準備) 「第1回」の復習。
第3回	「第九課」(進行“正在-?”、持続“-着” など)	(内 容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (必要な準備) 「第2回」の復習。
第4回	復習 「第八課」「第九課」	(内 容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (必要な準備) 「第八課」「第九課」の復習。
第5回	「第十課」(補語 結果補語、比較 A“比” B ~ など)	(内 容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (必要な準備) 「第4回」の復習。
第6回	「第十一課」(“是~的”構文、二重目的語 など)	(内 容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (必要な準備) 「第5回」の復習。
第7回	復習 「第十課」「第十一課」	(内 容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (必要な準備) 「第十課」「第十一課」の復習。
第8回	「第十二課」(補語 方向補語“来”“去”、“把”処置式の文 など)	(内 容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (必要な準備) 「第7回」の復習。
第9回	「第十三課」(主述述語文、存現文 など)	(内 容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (必要な準備) 「第8回」の復習。
第10回	復習 「第十二課」「第十三課」	(内 容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (必要な準備) 「第十二課」「第十三課」の復習。
第11回	「第十四課」(受身、使役 など)	(内 容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (必要な準備) 「第10回」の復習。
第12回	「第十五課」(複文、動詞A+也+動詞A+可能補語の否定形 など)	(内 容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (必要な準備) 「第11回」の復習。
第13回	復習 「第十四課」「第十五課」	(内 容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (必要な準備) 「第十四課」「第十五課」の復習。
第14回	総復習	(内 容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (必要な準備) 「第8課」から「第11課」の復習。
第15回	総復習	(内 容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (必要な準備) 「第12課」から「第15課」の復習。

授業名	フランス語 u			開講学年	4回生	単位数	1単位	
英文名	French			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	舟杉 真一			対象学生	現代家政4回生			
授業の概要	フランス語の初級文法を習得し、やさしい会話表現についても学んでいく。フランス語に独特の綴りと発音の関係、挨拶表現、冠詞、指示形容詞、所有形容詞、動詞の活用と表現、前置詞と定冠詞の縮約形、場所・方向の表現など、順序よく必要事項を習得させる。発音練習、文法事項の学習や確認はテキストによる演習形態の授業となる。							
学習成果到達目標	1) フランス語の綴りを読める。 2) 簡単な会話ができる。 3) ファッション用語、料理用語の由来がわかる。							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テキスト	なびふらんせ1 - バリをめぐる - 朝日出版社							
参考書	随時指示する							
留意事項	出席しているだけでなく、積極的に授業に参加してください。							
オフィス アワー	担当授業終了後およびメール							

授 業 名		フ ラ ン ス 語 u
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題
第1回	科目ガイダンス : フランス	(内 容) 授業方針。フランスとはどんな国? (必要な準備) 教科書p.2
第2回	フランス語のルール	(内 容) アルファベと綴りのきまり (必要な準備) 教科書p.16,17,18
第3回	フランス語のルール2	(内 容) フランス語の挨拶 フランス語の数 (必要な準備) 教科書p.19
第4回	パン屋で買う	(内 容) 名詞の性 冠詞(1) (必要な準備) 教科書p.20,21,22
第5回	パン屋で買う2	(内 容) 提示の表現 語彙と表現 (必要な準備) 教科書p.23
第6回	パリ発祥の地、シテ島	(内 容) 主語人称代名詞 動詞ETRE/AVOIR (必要な準備) 教科書p.24,25
第7回	パリ発祥の地、シテ島2	(内 容) 職業と国籍 数(2) (必要な準備) 教科書p.26,27
第8回	凱旋門とエッフェル塔	(内 容) 第1群規則動詞 (必要な準備) 教科書p.28,29
第9回	凱旋門とエッフェル塔	(内 容) 疑問文と答え方 (必要な準備) 教科書p.30,31
第10回	パリのマルシェ	(内 容) 冠詞2 複数形の作り方 (必要な準備) 教科書p.32,33
第11回	パリのマルシェ2	(内 容) 否定文と否定疑問文 (必要な準備) 教科書p.34,35
第12回	美術館で名作を観る	(内 容) 形容詞 指示形容詞 (必要な準備) 教科書p.36,37
第13回	美術館で名作を観る2	(内 容) 所有形容詞 (必要な準備) 教科書p.38,39
第14回	まとめ	(内 容) まとめ (必要な準備)
第15回	まとめ2	(内 容) まとめ2 (必要な準備)

授業名	フランス語 u			開講学年	4回生	単位数	1単位	
英文名	French			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	舟杉 真一			対象学生	現代家政4回生			
授業の概要	フランス語 に引き続き、フランス語の基礎力完成をめざす。発音練習、文法事項の学習や確認、会話表現を用いたの実演というテキストによる学習を中心とする。疑問形、数字にかかわる表現、比較表現、非人称構文、手紙表現等、順序よく必要事項を習得し、理解力を深める。フランスの歴史や文化を題材とした教材を選び、フランスの社会事情についての理解も深める。授業は演習形式で行う。							
学習成果到達目標	1) 簡単な会話が出来る。 2) ファッション用語、料理用語の由来がわかる。							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	なびふらんせ - パリをめぐる - , 朝日出版社							
参考書	随時指示する							
留意事項	出席しているだけでなく、積極的に授業に参加してください。							
オフィス アワー	担当授業終了後およびメール							

授 業 名		フ ラ ン ス 語 u
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題
第1回	科目ガイダンス : パリ	(内 容) 前期の復習 (必要な準備) 教科書p.2~20
第2回	前期の復習	(内 容) 前期の復習2 (必要な準備) 教科書p.21~39
第3回	映画館やカフェに誘う	(内 容) 不規則動詞ALLER/VENIR 近接未来、近接過去 (必要な準備) 教科書p40,41
第4回	映画館やカフェに誘う2	(内 容) 人称代名詞の強勢形 (必要な準備) 教科書p.42,43
第5回	カフェやレストランで注文する	(内 容) 疑問代名詞 疑問副詞 (必要な準備) 教科書p.44,45
第6回	カフェやレストランで注文する2	(内 容) 不規則動詞PRENDRE/FAIRE (必要な準備) 教科書p.46,47
第7回	モンマルトルを散策する	(内 容) 第2群規則動詞 (必要な準備) 教科書p.48,49
第8回	モンマルトルを散策する2	(内 容) 不規則動詞PARTIR 疑問形容詞 非人称構文 (必要な準備) 教科書p.50,51
第9回	買い物をする	(内 容) 準助動詞 (必要な準備) 教科書p.52,53
第10回	買い物をする2	(内 容) 比較級、最上級 (必要な準備) 教科書p.54,55
第11回	クリスマス	(内 容) フランスのクリスマス (必要な準備) フランスのクリスマスについて調べてみる
第12回	道案内をする	(内 容) 命令法 目的語人称代名詞 (必要な準備) 教科書p.56,57
第13回	道案内をする2	(内 容) 代名動詞 (必要な準備) 教科書p.58,59
第14回	過去を語る	(内 容) 複合過去 (必要な準備) 教科書p.60,61
第15回	まとめ	(内 容) まとめ (必要な準備) 復習

授業名	ハングル u			開講学年	2・3回生	単位数	1単位	
英文名	Hangul u			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	韓 亨模			対象学生	現代家政2回生・3回生、食物栄養2回生			
授業の概要	多文化が共生する今日、隣国である韓国の言葉や文字を学び、さらには韓国の文化に対する理解を深める。							
学習成果到達目標	1. ハングルの仕組みを理解し、正しく読み・書きができる。 2. 韓国語で基礎的なコミュニケーションができる。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (汎用的能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (積極性)	課題発見・解決能力			
テキスト	『基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版』 木内明 著 (国書刊行会)							
参考書	随時指示する。							
留意事項	特になし。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する							

授 業 名		ハンゲル u	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 講義の進め方、韓国語について、あいさつ (必要な準備)	
第2回	基礎・第2課 基本母音	(内 容) 10の基本母音、あいさつ (必要な準備) 前回の復習	
第3回	基礎・第3課 基本子音	(内 容) 平音、激音、濃音、鼻音、流音、自己紹介 (必要な準備) 前回の復習	
第4回	基礎・第4課 複合母音	(内 容) 11の複合母音、自己紹介 (必要な準備) 前回の復習	
第5回	基礎・第5課 バッチム	(内 容) 代表子音、実用表現 (必要な準備) 前回の復習	
第6回	基礎・第6課 発音の変化	(内 容) 有声音化、連音、流音化、激音化、実用表現 (必要な準備) 前回の復習	
第7回	基礎・第6課 発音の変化	(内 容) hの弱化、濃音化、口蓋音化、鼻音化、実用表現 (必要な準備) 前回の復習	
第8回	復習	(内 容) 文字(ハンゲル)と発音のまとめ (必要な準備) これまでの復習	
第9回	第1課 私は浅井ゆかりです	(内 容) ~は / ~です (必要な準備) これまでの復習	
第10回	第2課 出身はソウルですか	(内 容) ~が / ~ですか (必要な準備) 前回の復習	
第11回	第3課 図書館ではありません	(内 容) ~ではありません / ~ではありませんか (必要な準備) 前回の復習	
第12回	第4課 時間がありますか	(内 容) います・あります / いません・ありません (必要な準備) 前回の復習	
第13回	第5課 インターネットをします	(内 容) します・しますか / 何 (必要な準備) 前回の復習	
第14回	第6課 貿易会社で働いています	(内 容) (打ちとけた) します・しますか/います・いません (必要な準備) 前回の復習	
第15回	まとめ	(内 容) 春学期のまとめ (必要な準備) これまでの復習	

授業名	ハングル u			開講学年	2・3回生	単位数	1単位	
英文名	Hangul u			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	韓 亨模			対象学生	現代家政2回生・3回生、食物栄養2回生			
授業の概要	多文化が共生する今日、隣国である韓国の言葉や文字を学び、さらには韓国の文化に対する理解を深める。							
学習成果到達目標	1. ハングルの仕組みを理解し、正しく読み・書きができる 2. 韓国語で基礎的なコミュニケーションができる。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (汎用的能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (積極性)	課題発見・解決能力			
テキスト	『基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版』 木内明 著 (国書刊行会)							
参考書	随時指示する。							
留意事項	ハングルが読めることが望ましい。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する							

授 業 名		ハンゲル u	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 講義の説明、あいさつ、自己紹介、実用表現 (必要な準備)	
第2回	第7課 東大門市場に行きます	(内 容) (かしまった)です・ます (必要な準備) 前回の復習	
第3回	第8課 しょっちゅうスーパーで買います	(内 容) ヨ体、(打ちとけた)丁寧 / ~しに (必要な準備) 前回の復習	
第4回	第8課 しょっちゅうスーパーで買います	(内 容) 母音の縮約 / 変則用言の丁寧形 (必要な準備) 前回の復習	
第5回	第9課 それは1万ウォンです	(内 容) 漢数詞 (必要な準備) 前回の復習	
第6回	第10課 今、何時ですか	(内 容) 時間 (必要な準備) 前回の復習	
第7回	第10課 今、何時ですか	(内 容) 固有数詞、助数詞 (必要な準備) 前回の復習	
第8回	第11課 日本語を話されますか	(内 容) 尊敬語 (必要な準備) 前回の復習	
第9回	第12課 そんなに遠くありません	(内 容) 用言の否定 (必要な準備) 前回の復習	
第10回	第12課 そんなに遠くありません	(内 容) ~するといいです (必要な準備) 前回の復習	
第11回	復習	(内 容) 敬語(丁寧語・尊敬語)の復習 (必要な準備) これまでの復習	
第12回	第13課 いつ韓国に来ましたか	(内 容) 過去形 (必要な準備) これまでの復習	
第13回	第13課 いつ韓国に来ましたか	(内 容) 変則用言の過去形 (必要な準備) 前回の復習	
第14回	第14課 民俗村に一緒に行きましょう	(内 容) 勧誘の表現(～しましょう / ～しよう) (必要な準備) 前回の復習	
第15回	まとめ	(内 容) 秋学期のまとめ (必要な準備) これまでの復習	

授 業 名	健康スポーツ科学			開 講 学 年	2・3回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Health and Sports Science			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	山本 武司			対 象 学 生	現代家政2回生・3回生、食物栄養2回生			
授業の概要	健康スポーツ科学 ・ で学んだ基礎知識を基に、その応用として生涯に亘るスポーツ活動と健康活動を実現できるよう積極的にスポーツ活動を実践する。本授業での実施種目は卓球とバドミントンで試合を中心に授業を展開する。							
学 習 成 果 到 達 目 標	卓球、バドミントンを通して生涯に亘り積極的にスポーツを楽しむことができる理論と技術を身につける。							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (協調性)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (健康への理解)	課題発見・解決能力			
テ キ ス ト	プリントを配布する。							
参 考 書	随時紹介する。							
留 意 事 項	運動にふさわしい服装と上履きを用意すること。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	金曜日12:10~13:00(体育準備室)							

授 業 名		健康スポーツ科学	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	はじめに	(内 容) 本講に関するオリエンテーション (必要な準備)	
第2回	卓球・バドミントン 1	(内 容) 基本練習、試合 (必要な準備) ルールを調べる	
第3回	卓球・バドミントン 2	(内 容) 基本練習、試合 (必要な準備) 戦術を調べる	
第4回	卓球・バドミントン 3	(内 容) 試合 (必要な準備) 戦術を調べる	
第5回	卓球・バドミントン 4	(内 容) 試合 (必要な準備) 戦術を調べる	
第6回	卓球・バドミントン 5	(内 容) 試合 (必要な準備) 戦術を調べる	
第7回	卓球・バドミントン 6	(内 容) 試合 (必要な準備) 戦術を調べる	
第8回	卓球・バドミントン 7	(内 容) 試合 (必要な準備) 戦術を調べる	
第9回	卓球・バドミントン 8	(内 容) 試合 (必要な準備) 戦術を調べる	
第10回	卓球・バドミントン 9	(内 容) 試合 (必要な準備) 戦術を調べる	
第11回	卓球・バドミントン 1 0	(内 容) 試合 (必要な準備) 戦術を調べる	
第12回	卓球・バドミントン 1 1	(内 容) 試合 (必要な準備) 戦術を調べる	
第13回	卓球・バドミントン 1 2	(内 容) 試合 (必要な準備) 戦術を調べる	
第14回	卓球・バドミントン 1 3	(内 容) 試合 (必要な準備) 戦術を調べる	
第15回	卓球・バドミントン 1 4	(内 容) 試合 (必要な準備) 戦術を調べる	